

物性グループ事務局報

2015年3月22日

目次

巻頭言（物性委員長）	1
共同利用研究所委員推薦選挙結果	3
拡大物性委員会(2014. 3. 27)報告	9
物性幹事会(2014. 8. 23)報告	22
拡大物性委員会(2014. 9. 7)報告	31
物性委員会規約(2007. 9. 22 改正)	42
共同利用委員推薦に関する申し合わせ事項(2015. 3. 9 承認)	45
物性委員会幹事選挙について(2009. 3. 27 承認)	47
物性グループ登録メンバー(2015年3月現在)	48
物性委員名簿(2015年3月現在)	56
グループへの新規加入・更新について	61
名簿情報新規登録・更新方法	61

物性グループが目指すべきコミュニティの姿

物性委員長 石田武和（大阪府立大学工学研究科）

物性グループは、物性研究者の意見を集約し、日本の研究の現場に反映する活動をします。研究グループから選出される物性委員には選挙で幹事を選ぶ役割があります。物性委員と幹事は、全国の共同利用研究所の各種委員の選挙など、物性物理学に関わる重要な事柄に参画します。また日本物理学会の際に開かれる拡大物性委員会では、物性研究の将来計画、共同利用研究所のあり方などを議題とします。物性を研究対象としている研究者が誰でも参加できますから、物性の広い研究分野がカバーされます。物性グループは任意団体のボトムアップ組織であることから実行力に限界もありますが、真摯に提言を出すことに努めています。あまり一般の物性グループ会員に知られていない可能性もあります、文部科学省の大型プロジェクトのロードマップの策定では、『研究者の知的好奇心・探求心に基づく主体的な検討と研究者コミュニティの合意形成により周到に構想・準備されているプロジェクトであること』が繰り返し強調されています。物性コミュニティの形成では、このことにも十分に留意したいものです。物理学の他分野でも、素粒子論グループ、高エネルギー物理研究者会議、原子核懇談会、宇宙線研究者会議など、多くの研究者コミュニティがあります。物性物理分野でこの役割を果たすことのできるのが物性グループとなるのであれば、自ら求心力を発揮して取りまとめる活動が望まれます。

物性グループの行程は進むべき道の模索の歴史でした。私たち事務局は、発足にあたり、3つの目標を掲げました。(1)物性グループの会員を増やし、分野の偏りも是正して、物性委員会を物性コミュニティとしての実効性を持たせること、(2)日本学術会議との連携強化の方策として日本学術会議会員から物性委員会幹事会のメンバーに充て職として参画できる規約改正を行うこと、(3)日本物理学会など関係学会の理事会との連携を強めること、の3項目でした。(1)に関しては、3年周期の資格更新忘れなどで、私たちも物性グループ会員数の大幅減を経験しましたが、現在は1020名までV字回復させ物性委員は220名まで戻すことができました。(2)に関しては、幹事会の議を経て、2014年春と2015年春の拡大物性委員会で制度整備を完了しました。その結果、選挙で選ばれる物性委員会幹事と充て職で選出された幹事を加えて総数23名と充実しました。(3)に関しては、科学・夢ロードアップ、領域制度のあり方、電子ジャーナル問題への対応では、各種学会と情報交換をしてきました。

今後の物性グループに求められる仕組みですが、幹事会にワーキンググループ(WG)を設け、原案を作り幹事会全体で討議する組織づくりを考察してみましよう。委員長として、いくつかのWGとWG長体制の試行を行って、そのフィジビリティ評価を行いました。それで前向きな感触を得て、今後の物性グループ幹事会のあり方として考察しました。すなわち、様々な課題に対応するために常設のWG体制を作り、各幹事はいずれかのWGに所属して、物性委員の選挙で選ばれた有識者として期待に応える構想です。例えば、今後重要となるであろう大型計画の提言、学術会議との連携、物理学会など学会との連携、選挙制度、電子ジャーナルの平等アクセスなど、役割を決めて合理的に、機能的に動ける体制を検討していけないでしょうか。関連して、幹事選挙でも、物性委員も幹事候補の考えを良く知った上で投

票できるシステムを考えて見ました。すなわち、幹事の候補者となられた方に短い所信をメモで書いて頂き、物性委員がそれを投票用紙で読んで投票することで、物性委員は選挙で誰を選んで良いのか、幹事は選出されて何をすればよいのかキャッチアップができる仕組みとなりそうです。この方式は、幹事会の構成員の研究分野の偏りを是正し、さまざまな研究分野や機関カテゴリー（研究型大学、地域の大学、国立大学、公立大学、私立大学、国の研究機関、研究機構など）の異なる研究者の幹事会参加を促す仕組みとして期待できます。物性委員会は、コミュニティの意向を大切にする共同利用研究所の運営に協力していきます。東京大学物性研究所、京都大学基礎物理学研究所への協力を継続し、新規に高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の委員推薦にも協力を始めました。共同利用研究所は、その存続意義のためにも研究者コミュニティの意向を尊重することが求められるのではないのでしょうか。物性グループも襟を正して、適切に発信出来るための研鑽が必要となりそうです。

物性グループ事務局は電子ジャーナル問題に積極的にコミットしました。プレスでも大きく取り上げられ、「緊急アピール」、「3つの提言」は検索エンジンでも物性グループが最上位にランクされます。研究者の社会は、「競争」を一つの駆動力として機能しますが、それが公平で透明なものであれば、多くの研究者は納得して受け入れます。競争の中にも、同じ分野に携わる研究者には大きな「共感」と「共有」があり、「連帯」の心情があることが理想です。全国津々浦々に散在して活動する優れた素質を持つ大学人、研究員、院生、学生に、「基幹的な電子ジャーナルに平等にアクセスできる条件」を保証できて、その素質を埋もれさせない努力を物性グループが範となり示すことで、大きな「連帯」が広がっていくのではないのでしょうか。論文生産性の統計を見ると日本の凋落傾向は近未来の暗雲となり、アジアの国々（中国や韓国）の昇日の勢いとの対比が際立ち、少数のエリートの役割に委ねる方式にはやや不安があります。むしろ、実質的な研究者人口を増やす発想も検討の必要があり、そのためにも「基幹的な電子ジャーナルの平等アクセス」が必要なのではないのでしょうか。これまで各大学が立派な図書館を整備して複写サービスなどで相互利用してきました。私たちの大学では、一般市民の方も大学図書館を訪問してもらえれば大学が購読契約をしている電子ジャーナルへアクセスを許可し公開しています。次の様に発想してみたらどうでしょうか。以前の機関ごとに図書管理体制を整備する方式からから全国でたった一つの大きな図書館をサイバー空間に創る方式に変えるのです。そこに購読契約をした電子ジャーナルをサイバー図書館の「書架」に置き、この書架をネットワークから訪問資格のある人に開放して、全ての研究者が閲覧出来る状態を実現するのです。この例えが分かりやすく、理解しやすいかも知れません。私たち物性グループが世に問いかけた「緊急アピール」の「3つの提言」がどのような道筋を経て討議され、実現へのシナリオが描かれるべきかが課題であり、コミュニティと研究現場の切実な現状を正確に声として社会や為政者に対して伝達し、基本法が想定する年間5兆円規模の科学技術への予算のうち、「研究者の学術情報への平等アクセスの実現」のために投資できる予算規模に関しては、畢竟、国の将来を思い、国や国民の皆さんが行うべき究極の選択となることを納得して頂けるように、国民的な議論の枠組みを促し、人々に静かに理解と共感の輪を拡がる様な状況を作ることが大切です。

物性グループも物性コミュニティとしての着地点指向型に転換していくことを目指し、力強く発信する組織へ変貌することが求められています。皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(2015年3月)

吉村一良（京大理） 26 票
谷垣勝己（東北大大理） 25 票

(3) 京都大学基礎物理学研究所 運営協議会委員委員（任期：2015.4.1-2017.3.31）

有権者数 209 有効投票総数 141 票（投票率 67.5%）
統計力学物理分野 2 名（正候補 1 名と補欠候補 1 名）および
物性物理分野 5 名（正候補 3 名と補欠候補 2 名）以内で投票（郵送）

【統計力学分野】

物性グループより推薦

田崎晴明（学習院大理） 44 票
（補欠候補者）
川村光（阪大理） 37 票

【物性物理学分野】

物性グループより推薦

遠山貴己（東理大理） 59 票
石原純夫（東北大大理） 58 票
小形正男（東大理） 55 票
（補欠候補者）
宮下精二（東大理） 50 票
上田和夫（東大物性研） 48 票

(4) 京都大学基礎物理学研究所 共同利用運営委員会委員（任期：2015.4.1-2017.3.31）

有権者数 209 有効投票総数 139 票（投票率 66.5%）
統計力学物理分野 2 名（正候補 1 名と補欠候補 1 名）および
物性物理分野 5 名（正候補 3 名と補欠候補 2 名）以内で投票（郵送）

【統計力学分野】

物性グループより推薦

中西秀（九大理） 42 票
（補欠候補者）
香取眞理（中央大理工） 42 票

【物性物理学分野】

物性グループより推薦

押川正毅（東大物性研）	59 票
柳瀬陽一（新潟大理）	59 票
黒木和彦（阪大理）	59 票
（補欠候補者）	
常行真司（東大理）	53 票
村上修一（東工大理）	47 票

（５） 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所運営会議委員（任期：2015. 4. 1-2018. 3. 31）

幹事会によるノミネーションの結果、幹事委員の投票により 1 名の推薦を行った。

ノミネーション期間：2015. 1. 13-2015. 1. 16

投票期間：2015. 1. 16-2015. 1. 21

投票の結果：投票総数 19票

西田信彦（豊田理研）	6票
倉本義夫（東北大理）	6票
次々点 家泰弘（東大物性研）	4票

最多得票数で2名が並んだが、年長者を推薦するとの申し合わせにより、西田信彦を推薦することとなった。

各種推薦委員選挙結果履歴(敬称略)

1. 物性委員会幹事(任期3年, 物性委員会交代年の8月に選挙)

2012.10-2015.9 家、石田(武)、石原、伊藤、上田、大塚、高木、田中、出口、藤、中西、西田、西森、野尻、野村、早川、播磨、古崎、前田、前野、村上、村田
2009.10-2012.9 安藤、家、岩佐、上田(和)、大貫、小形、奥田、川上、倉本、佐宗、佐藤(英)、高島、田島、西田、西森、早川、播磨、藤森、松田、三宅、村上、村田
2006.10-2009.9 佐藤(正)、高島、後藤、北岡、大貫、巨海、三宅、秋光、前川、上田(和)、福山、前野、矢ヶ崎、坪田、鈴木、宮下、小田垣、高橋(隆)、押山、川上

2. 物性研人事選考協議会委員(任期2年, 1年ごとに3名と2名が交代, 委員推薦時期8月中旬)

2015.4-2017.3 川上、高島

2014.4-2016.3 田島、田仲、島川

2013.4-2015.3 西森、樽茶

2012.4-2014.3 播磨、松田、陰山

2011.4-2013.3 斎藤、村上

2010.4-2012.3 倉本、山田(和)、吉村

2009.4-2011.3 佐藤(英)、川村

2008.4-2010.3 川上、高木、加藤

2007.4-2009.3 三宅、高島

2006.4-2008.3 後藤、村上、西森

2005.4-2007.3 永長、北岡

2004.4-2006.3 鹿児島、川上、中村

2003.4-2005.3 佐藤(正)、安藤

2002.4-2004.3 大貫、倉本、水崎

2001.4-2003.3 前川、十倉

2000.4-2002.3 菅、三宅、西田

1999.4-2001.3 山田(耕)、遠藤

1999.4-2000.3 前川

1998.4-2000.3 張、本河、福山

1997.4-1999.3 斯波、小林

1996.4-1998.3 川村、石黒、藤田

3. 物性研協議会委員(*2008以降日本学術会議が推薦)

(* 2014.9-2016.8 大野、兒玉、田崎、永長、前野、阿波賀)

(* 2012.9-2014.8 入船、小川、高木、小池、青梅、阿波賀)

(* 2010.9-2012.8 野尻、腰原、太田、野上、曾根、尾嶋)

(* 2008.9-2010.8 福山(寛)、野村、岩佐、岡部、中嶋)

2006.9-2008.8 熊谷、宮島、宮下、中村、前野、金子

2004.9-2006.8 倉本、北岡、青木、鈴木、佐藤(英)

2002.9-2004.8 前川、佐藤(正)、西田、大貫、高畠

2000.9-2002.8 巨海、佐藤(正)、西田、三宅、山田(耕)

1999.3-2000.8 鈴木(治)

1999.1-2000.8 菅

1998.9-2000.8 遠藤、斯波、張、

1996.9-1998.8 遠藤、斯波、小林、藤田、秋光

4. 物性研共同利用施設専門委員会

(任期2年,1年ごとに8名と7名が交代,委員推薦時期8月中旬)

2014.4-2016.3 遠山、鄭、有馬、佐々木、鈴木、小山、村山、社本、細越

2013.4-2015.3 寺崎、松田、世良、撰待、小林、村田、播磨、鹿野田、吉村

2012.4-2014.3 石田、加賀山、網塚、佐藤(憲)、黒木、石川、森、新井、細越

2011.4-2013.3 高畠、前野、有馬、村田、紺谷、後藤、堀田、加藤、川勝

2010.4-2012.3 伊土、関根、佐宗、奥田、石川、松田、小林、鈴木(孝)、細越

2009.4-2011.3 田島、村田、繁岡、村上、世良、小口、武田、鹿野田、金谷

2008.4-2010.3 網塚、岩佐(義)、田中、野尻、福山、後藤、石田、白濱、吉村

2007.4-2009.3 高畠、前野、巨海、和田、鈴木(孝)、野末、天児

2006.4-20.3 繁岡、宇田川、和田、村田、田島、松田、石田(武)、高橋

2005.4-19.3 仲間、高畑、巨海、吉村、山田(和)、前野、熊谷

2004.4-18.3 高野、後藤、小口、石川、野尻、村田、和田、大貫

2003.4-17.3 野末、北岡、赤井、前野、高橋(隆)、水貝、奥田

2002-4-16.3 高畠、山田(和)、岩佐、太田、巨海、畑、谷口、樽茶

2001.4-15.3 熊谷、佐藤(英)、酒井、後藤、宇田川、矢ヶ崎、高柳

2000.4-14.3 村山、三宅、佐藤(正)、大貫、北岡、鈴木、網代、水崎

1999.4-13.3 太田、前川、巨海、倉本、前野、大門、高畠

1998.4-12.3 高橋(隆)、嶽山、山田(和)、山田(耕)、田中(耕)、城、川上(正)、栗原(進)

1997.4-11.3 栗田、水崎、佐藤(正)、三宅、北岡、伊藤、藤田

1996.4-10.3 遠藤、倉本、斯波、梶田、鈴木、菅、大貫、宮下

5. 京都大学基研運営委員 (任期2年,4名,連続3選は禁止)

2013.8-2015.3 川上、川村、永長、倉本

2011.8-2013.7 川上、上田(和)、栗原、田崎

2009. 8-2011. 7 上田、鈴木、齊藤、坪田
2007. 8-2009. 7 倉本、川上、川村、宮下
2005. 8-2007. 7 三宅、福山、前川、倉本
2003. 8-2005. 7 福山、斯波、三宅、前川
2001. 8-2003. 7 山田(耕)、安藤、斯波、倉本
1999. 8-2001. 7 山田(耕)、安藤、倉本、張
1997. 8-1999. 7 斯波、福山、鈴木(増)、興地
1995. 8-1997. 7 斯波、川村、鈴木(増)、興地
1993. 8-1995. 7 山田(耕)、安藤、福山、川村

6. 京都大学基研共同利用委員

(任期 2 年, 4 名, 京都大学基礎物理学研究所運営委員に選出された者は除く)

2013. 1-2014. 12 楠瀬、黒木、小口、柳瀬
2011. 1-2012. 12 紺谷、小口、坂井、楠瀬
2009. 1-2010. 12 紺谷、石原(純)、上羽、西森
2006. 12-2008. 11 赤井、山下、永長、平島
2005. 4-2006. 12 本田、三宅、赤井、川村

7. 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所運営会議委員

(任期 3 年, 1 名)

2015. 4-2018. 3 西田

拡大物性委員会（物理学会インフォーマルミーティング）

2014年3月28日（金）18:00–20:00

日本物理学会 2014 年年次大会 東海大学 AC 会場

[出席者（敬称略、地域順）]

村山（室蘭工大）、野村（北大理）、倉本（東北大理）、野尻（東北大理）、佐々木（東北大金研）、矢嶋（宇都宮大工）、川北（原子力機構 J-PARC）、社本（原子力機構）、新井（原子力機構）、菊池（原子力機構）、藤井（GROSS 東海）、鈴木（GROSS 東海）、佐藤（GROSS 東海）、兵頭（KEK 物構研）、門野（KEK 物構研）、山田（KEK 物構研）、村上（KEK 物構研）、三宅（KEK 物構研）、柳沢（産総研）、大塚（筑波大）、門脇（筑波大）、伊賀（茨城大理）、長嶋（東理大理）、福山（東理大総研）、河野（理研）、瀧川（東大物性研）、徳永（東大物性研）、嶽山（東大物性研）、榊原（東大物性研）、上田（東大物性研）、金道（東大物性研）、家（東大物性研）、小森（東大物性研）、小形（東大理）、今田（東大工）、為ヶ井（東大工）、前田（東大総合文化）、出口（お茶大理）、栗原（早稲田大理工）、斯波（東工大）、秋光（青山大理工）、西田（豊田理研）、伊藤（名大理）、水谷（北陸先端大院）、遠山（京大基研）、石田（京大理）、池田（京大理）、齋藤（京大化研）、田島（阪大理）、清水（阪大極限）、村田（大阪市大理）、宍戸（大阪府大工）、高橋（大阪府大 21 機構）、水木（関学大理工）、播磨（神戸大理）、籾（神戸大理）、野原（岡山大）、小林（岡山大）、乾（広島大総合）、鈴木（広島大先端物質）、小山（鹿児島大理）

事務局：石田（大阪府大工）、田中（大阪府大理）、加藤（大阪府大工）、戸川（大阪府大工）

計 65 名

配布資料

- ・物性研 報告
- ・KEK・物質構造科学研究所 報告（山田和芳）
- ・J-PARC/MLF 物質・生命科学実験施設（新井、瀬戸、藤井）
- ・京都大学基礎物理学研究所
- ・物性科学連携研究体

議事次第

1. 18:00 事務局挨拶（委員長：石田武和） 5分
2. 18:05 事務局報告 25分
 - 1) 会計・会員状況の報告、会員更新・新規加入の案内
 - 2) 事務局報の報告、pdf 化について
 - 3) Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APTCP) の委員推薦についての報告
 - 4) 学術会議との連携強化について
 - (i) 学術会議推薦幹事のための規約改正承認
 - (ii) 理学工学分野における科学・夢ロードマップの改訂
 - (iii) 『学術会議との連絡会』（3/29 12:30~13:30 SA 会場）

3. 18:30 学術会議との連携「日本学術会議物性物理学・一般物理学分科会からの提言」（講演 25 分、質疑 10 分）

学術会議会員/物一分科会委員長 田島節子（阪大）

4. 19:05 物理学会の領域改革について：「物理学会領域制度の課題と今後のあり方（国際化を含む）」

1) 理事会から：石田 憲二（京大）（25 分）

2) 領域代表から：出口 哲生（領域 1 1）（お茶大）（5 分）

乾 雅祝（領域 6）（広島大）（5 分）

3) 質疑（10 分）

5. 19:50 その他

6. 20:00 終了・散会

議事

1 事務局挨拶（委員長：石田武和）

事務局が掲げる 3 つの目標、① 物性グループの会員・参加分野の拡大、② 学術会議との連携強化、③ 日本物理学会を含めた関係学会との連携の意図が紹介され、今回の議題との関連性が説明された。

2 事務局報告（田中事務局長）

1) 会計・会員状況の報告、会員更新・新規加入の案内

会員状況：グループ数 205（+37）、物性委員 242（+40）、メンバー 1139（+126）

事務局の引継ぎ(2012 年 9 月)以降、会員数、グループ数、研究分野も拡大していることが報告された。

会員更新の案内：

2014 年 4 月に行う登録更新の手続きの詳細が説明された。3 年間分(2014 年 4 月～2017 年 3 月)の更新となる。

会計報告：前回の拡大物性委員会時点での残額が 168 万、会員の会費振込みがあり 3 万円ほど入金。人件費で 2 万ほど支出。現在の残金は 169 万 4920 円。

2) 事務局報の報告、pdf 化について

今回から事務局報を PDF 配信が説明された。事務局報は物性グループの WEB サイト公開で、ダウンロードが可能である。

3) Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APTCP) の委員推薦についての報告

Asia Pacific Center for Theoretical Physics の日本委員の推薦を行った。昨年 8 月の幹事会にて物性分野から委員を推薦することとなり、幹事からの推薦を 9 月末まで受け付けた。三宅和正氏(任期 2014 年 3 月末)の任期満了を受け、早川尚男氏(京大基研)を 10 月に推薦した。APTCP 日本委員会の物性サブグループ委員は、古崎昭氏(理研)(任期 2015 年 3 月末)、早川尚男氏(任期 2016 年 3 月末)の 2 名である。

4) 学術会議との連携強化について

(i) 学術会議推薦幹事のための規約改正承認

従来からの物性委員の幹事に加えて、学術会議から推薦される幹事の枠を設ける方針が前回の拡大物性委員会(2013/9/26)で承認された。今回の拡大物性委員会で規約改正の内容を提案するという取り決めに従い、幹事会承認の規約改正案が事務局より提案され、会場より承認された。この規約案は学術会議の物性物理学・一般物理学分科会に提出し2月に承認され、3月初めに物性委員長から学術会議に新幹事の推薦依頼を行い推薦を受けた経緯が説明された。また、物性物理学・一般物理学分科会の会員(役員、委員長、副委員長、もしくは、会員)が常に1名入る形での推薦を物性委員会から学術会議の方へお願いするように、次期の事務局への申し送り事項を作成することが報告された。

物性委員会規約(改正提案)

2006年 3月27日制定、2007年 9月22日改訂、2014年 3月28日改訂

第5章 幹事

(幹事の構成と選出)

第14条 本会に幹事を置く。

- 一. 幹事のうち2名は委員長、事務局長とする。
- 二. 幹事のうち2名は、前委員長、前事務局長とする。
- 三. 上記以外の幹事として、18名を物性委員会の選挙により、会員あるいはそのグループの構成員から選出する。
- 四. この他の幹事として、日本学術会議 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会の委員より、同分科会の委員長が推薦した2名以内の者に物性委員会委員長が委嘱する。
- 五. 四項の幹事に空席が生じた場合には随時、新しく幹事を委嘱できるものとする。
- 六. 四項の幹事であるものが、新たに一項から三項の幹事となることを妨げないが、その場合は五項の規定にかかわらず、当該幹事の四項幹事としての残任期間は空席として、新たな幹事を委嘱しない。

(幹事の任期)

第15条 任期は事務局の任期と同じ3年とする。ただし、第14条四項の幹事は日本学術会議の委員の任期に合わせるものとする。

附 則 この規約は2014年3月28日より施行する。

従来の幹事会は、物性委員会の選挙で選出された18名の幹事に加えて、現委員長、現事務局長、前委員長、前事務局長を併せた合計22名の幹事で構成されていたが、学術会議からの推薦幹事が常に2名在籍することになり、学術会議と物性委員会の連携が強化されることが期待される。

申し送り事項:

物性委員会と学術会議物性物理学・一般物理学分科会の連携を強力に推し進める立場から「学術会議から物性委員会への幹事の推薦にあたり物一分科会所属の学術会議会員の方が1名は入る形で2名以内の推薦」を双方の組織での申し送り事項とする。

石田・委員長より補足説明：

学術会議物性物理学・一般物理学分科会（学術会議の物一分科会 と略称される）では40名の先生が活動されており、その内訳は学術会議会員が3名、連携会員が37名。学術会議会員と連携会員では“集まる情報量や把握している内容が違う”そうであり、“3人の学術会議会員から少なくとも1人が幹事として入っていただくようお願いするようにする”という申し送り事項を加えることにした。

<学術会議からの幹事推薦>

以上の規約に基づき、学術会議から幹事2名を推薦頂いた。

・家泰弘（東大物性研）：学術会議副会長、（現）物性委員会幹事

・田島節子（阪大理）：物一分科会委員長

2名の先生が学術会議から推薦された幹事として会場より承認された。

4) 学術会議との連携強化について

(i) 理工学工学分野における科学・夢ロードマップの改訂

前回の拡大物性委員会で日本物理学会の斯波弘行会長が「「夢ロードマップ」への物性コミュニティの関与」という題目で講演し、学術会議より日本物理学会に依頼された理工学工学分野向けの科学・夢ロードマップの改訂案を作成することが承認された。これを受けて、物性科学分野WG（WG長：伊藤・名大、村田・大阪市大、中西・九大）と原子分子ナノ科学分野WG（WG長：大塚・筑波大、古崎・理研、西森・東工大）の2つのワーキング・グループが2013年9月より2011年度版を基に改訂案を作成したことが報告された。“改訂案は2013年12月に幹事会で承認され、物理学会に提出、2014年1月に物理学会理事会にて改訂案が了承され、学術会議に提出され、現在、学術会議にて最終案が策定されている”という経緯が説明された。各WG長から改訂の内容が説明された。

（伊藤・物性科学分野WG長）：昨年度に家先生が作成された案を大幅改定しない基本方針が幹事会で決まった。この方針に沿い、事務局と改訂作業を進め、図の差し替え、最近のトピックの追加、レイアウトや吹き出しの変更などを行った。

（大塚・原子分子ナノ科学分野WG長）：意見を集約し、家先生が作成されたロードマップ案に少しかだけ改訂を加えた。専門用語は略さずに明記するようにし、いくつかのキーワードを追加した。光関係の語句は別のカテゴリーなので削除した。

（斯波・日本物理学会会長）：日本物理学会理事会には物性関係の理事・監事がおり、少し文言を改訂した。全体や他分野との整合のために、再度、日本物理学会に確認の連絡がある。4月以降は兵頭次期会長のもと藤井次期副会長が対応する。

*事務局注

公開されたロードマップ 2014 は学術振興会のホームページで閲覧できる。「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ 2014 (夢ロードマップ 2014)」

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-22-20081.html>

3. 分野別ロードマップ (3-3 物理学分野 Part1 物理学分野 Part2 物理学分野 Part3)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-20081-3-3-1.pdf>

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-20081-3-3-2.pdf>

4) 学術会議との連携強化について

(iii) 『学術会議との連絡会』

日本学術会議と日本物理学会理事会の合同インフォーマル・ミーティングが3月29日12時30分~13時30分にSA会場開催と紹介された。プログラムは次の通りであり、マスタープランの紹介やロードマップの話などが詳しく説明される。

- ・ 開会挨拶 司会 相原 第三部幹事 (3分)
- ・ 物理学委員会の活動・概要とマスタープラン 2014 : 伊藤早苗委員長 (20分)
- ・ 物・一分科会 提言 : 田島 物・一分科会委員長 (10分)
- ・ 夢・ロードマップ、物理教育の質保証 : 相原 第三部幹事 (7分)
- ・ これからの22期の活動・結び : 家 副会長 (5分)

各所あわせての質疑時間を15分確保

3 学術会議との連携「日本学術会議 物性物理学・一般物理学分科会からの提言」(学術会議会員/物一分科会委員長 : 田島節子)

第22期の物性物理学・一般物理学分科会(学術会議の物一分科会と略称される)で準備中の提言内容が紹介された。

*事務局注 提言は下記のHPで公開されている。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t192-1.pdf>

学術会議の構成、物一分科会

学術会議の構成が説明された。第3部の理工系に属する物理学委員会の学術会議会員のうち、今期の物性・一般物理学関係者は家会員、伊藤早苗会員、田島会員の3名であり、今期の物一分科会は連携会員37名を加え40名で構成されている。

学術会議・分科会の役割、今期の目標

“学術振興のために必要な事項を分析して提言する”ことが分科会の役割であり、物一分科会が2008年第20期の家委員長のもと行った提言「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」に対する政府施策の検証(フォローアップ)を今期の目標として活動したことが説明された。

第22期物一分科会 提言フォローアップWG 委員

合計11名で構成されている。

委員 田島節子（第三部会員）物一分科会委員長、

主査 五神真（第3部連携会員）、幹事 伊藤公孝（第3部連携会員）

委員 伊藤公平（第3部連携会員）、委員 蛭名邦禎（第3部連携会員）、委員 北岡良雄（第3部連携会員）、

委員 河野公俊（第3部連携会員）、委員 腰原伸也（第3部連携会員）、委員 瀧川仁（第3部連携会員）

委員 谷口雅樹（第3部連携会員）、委員 吉川研一（第3部連携会員）

第20期の提言「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」

6年前の提言は大学法人化による研究環境への影響を懸念して作成された経緯が説明された。

- （1）デュアルサポート（基盤的経費と競争的経費）の充実
- （2）共同研究や連携研究を促進する新しい支援制度の構築
- （3）中・大規模研究施設の整備計画策定の仕組みの構築

検証の結果

提言（1）デュアルサポートの充実 → 調和のとれたデュアルサポートは実現されていないことが報告された。

提言（2）共同研究や連携研究を促進する新しい支援制度の構築 → 提言内容が概ね実現されていることが報告された。

提言（3）中・大規模研究施設の整備計画策定の仕組みの構築

→ 学術会議マスタープランが有効に機能した可能性があること、物一分野における大型研究計画を推進する仕組みの構築が未完成であることが報告された。

新たに顕在化した問題

- ・競争的資金への過度な傾斜
- ・大学の役割分担論
- ・個別の法人に閉じた最適化に頼るシステム改革の弊害
- ・有期雇用の博士研究員の増大（競争的資金増大に伴う）。別途、専門に審議する委員会が設けられている。

第22期物一分科会からの提言「物性物理学・一般物理学の学術研究のさらなる振興のために」

- （1）デュアルサポート（基盤的経費と競争的資金）の充実
- （2）法人枠を超えた全国的規模の連携研究の振興
- （3）若手研究者の職の不安定化問題の解決 → 学術会議課題別委員会

の3点を提言した。

物性委員会（物性コミュニティ）に期待すること

- ・物性物理学の価値について、社会（政府・国民）に発信し続けること。
- ・マスタープランやロードマップの策定に積極的に関与すること。

大型研究計画マスタープラン（物理学関連）

2回目のマスタープラン <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t188-1.pdf>

- ・人文科学からすべての計画を合わせて、学術会議全体としては207件提出された。
- ・物理学委員会から提出した研究計画31件。内区分IIが7件、区分IIは前回採択されているもの。
- ・内、ヒアリング課題8件で、最重点課題ではないが大型重点研究計画（27件が採用）に残ったものが6件
- ・物一分科会から提出した中で最後に残ったものは次の4つ。

物理学

73 23-1 未踏波長領域の極限コヒーレント光源による物性光科学の開拓

74 23-1 非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画

78 23-1 パワーレーザーによる真空量子光学開拓のための大規模連携研

80 23-2 J-PARC 実験施設の高度化による物質の起源の解明

- ・最後の27件の中に残ったのは#74のプラズマだけであり、いわゆる物性関係の研究計画は一つも残っていない。

化学委員会から提出して大型重点研究計画に採択された物性物理関連の課題

- ・物性関係の計画で物理学委員会ではなく化学委員会から提出され、大型重点研究計画（27件）に残った。

化学

140 26-1 新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計画（放射光学会）

147 26-5 アト秒レーザー科学研究施設（東大の理学系）

148 26-8 物性科学連携研究体（理研の玉尾先生）

物性関係計画が化学委員会から提出され3つ通ったことは良いことであるが、物性委員会・物性コミュニティから提出できればなおよい。マスタープランは定期的に改訂されるので、次回までに物性コミュニティ内での進め方を議論しておく必要がある。昔、学術会議に国分寺構想というものがあった。その発想に近いのが“物性科学連携研究体”ともいえるが、参加研究所が限られている。もう少し大規模にするのも一案。マスタープランの大型重点研究計画に採択で直ちに予算が付く訳ではなく、漠然と認知されたということ。将来これを軸に大きな予算がつくかもしれないというレベルの話である。

<質疑>

（石田・委員長）：“田島先生からの物性コミュニティに呼びかけ”に対してコメントや質問をお願いする。

（福山・東京理科大）：化学から提出したのは、申請者が化学から出した方が良いと判断したからか？

（水木・関学大理工/放射光学会会長）：放射光から提出した計画をまとめた。中性子が物理から出ることもあり、多分野のユーザーが参加している放射光は化学から出すように判断した。

（田島・学術会議会員/物一分科会委員長）：マスタープランの選択や提出のプロセスは、科研費のスタイルに近かった。物性コミュニティからいつでも提案できるように議論しておくことが重要である。化

学分野や素粒子分野や天文分野は組織的に動いている。物性分野は、人数は多いが、コミュニティ全体での活動が不足している。

(石田・委員長)：12月頃に「物性コミュニティでマスタープランについて何か議論しなくてもよいのか？」と声をかけていただいた。そのとき既に遅かったと言え、次期に向けて物性コミュニティとして組織的に動くべきと解釈したい。

(田島・学術会議会員/物一分科会委員長)：そのようにして頂きたい。

(瀧川・東大物性研)：前回同様、今回も、文部科学省のロードマップにコンバートされるのか？

(家・学術会議)：一昨日から文科省で関連したヒアリングが行われている。

(田島・学術会議会員/物一分科会委員長)：科学・夢ロードマップの意味合いはマスタープランとは全く別。学術コミュニティが“世の中に夢を与えるために描く”、“未来はこうなりますよ”と伝えるのが科学・夢ロードマップ。素粒子・原子核は、常に一般社会に訴えることを考えており、必要なときに言葉がすぐに出てくる。

(石田・委員長)：田島先生には物性グループ幹事に学術会議側からの幹事として参加していただいている。今後も情報提供をしていただき、活発な議論が行われるようにご協力いただきたい。

4 物理学会の領域改革について：「物理学会領域制度の課題と今後のあり方（国際化を含む）」

1) 理事会から（日本物理学会理事：石田憲二）

日本物理学会の領域制度への見解および対策、学会運営における国際化の方針 について説明された。

学会からの発信

学会が取り組んでいる新しい試みである、JPS の Conference Proceedings の発刊、学会の学会誌のリニューアル、学会ホームページの強化 の詳細が紹介された。

領域問題

去年の8月10日の理事会で“領域制度の問題点と理事会の見解をまとめた”ことが報告された。

領域からの要望や指摘事項や問題点

- 1 理事会として領域問題への見解を示してほしい
- 2 各領域での立場の違い。最適の名称で表される領域とそのようにはできない領域がある。特に小さいグループからなる領域などでは出発点異なる。
- 3 領域の番号は日本だけで通じる番号であり、海外では通用しない。それがあたかも決まったような番号のように、プログラムや若手賞の問題にかかわっている。

理事会の見解

- 1 “細分された分科名は学問の発展を阻害するということで流動性を高めるために番号制を導入した”が、“番号制を導入したからといって流動性が大きく向上したようには見えない”と現状を評価する
- 2 領域自体がさまざまな団体の若手奨励賞や代議員の選出の母体となっている。temporary とした領域が意味を持つてくることを危惧している

3 他の領域や、素核・宇宙領域から、領域分野や中身が見にくいことは非常に問題であり、番号制のデメリットである

4 若手の研究の裾野を狭めている

理事会からの回答・提案・対応

- ・問題点は了解したが、取りあえずは今の領域制度を継続する
- ・現状を考えると、若手賞やシンポジウムの仕組みを変更するのは難しく、今の段階で変わることはできない
- ・当面は領域の番号を踏襲する。領域の中身が分かるように、番号と分野の対応を必ず併記する。
- ・番号は随時変更しても良い
- ・毎年の年次大会のときは必ず領域会議で名前等について話し合う
- ・昨年8月に理事会から12個ある各領域に“カテゴリーの中身を表すキーワード”を出すように指示した
- ・9月の学会中に各領域で話し合い、11月の領域委員会(11/19)で領域代表がその内容を話し合えるように段取りした
- ・領域番号と分科名を併記することで、学会の内容や各会場での研究テーマがわかるようにする。
- ・領域の内容は固定するものではなく、新たな領域がうまれることも推奨する。

<領域委員会で決まった名称>

- 領域1： 原子分子・量子エレクトロニクス・放射線
- 領域2： プラズマ
- 領域3： 磁性（以前は磁性と磁気共鳴であったが、領域3が“磁性”と決定した）
- 領域4： 半導体、メゾスコピック系・局在
- 領域5： 光物性
- 領域6： 金属（液体金属・準結晶）・低温（超低温・超伝導・密度波）
- 領域7： 分子性固体
- 領域8： 強相関電子系
- 領域9： 表面・界面、結晶成長
- 領域10： 構造物性（誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン）
- 領域11： 物性基礎論・統計力学・流体物理・応用数学・社会経済物理
- 領域12： ソフトマター物理・化学物理・生物物理
- 領域13： 物理教育・物理学史・環境物理

国際化について

- ・日本社会のグローバル化に応じて、日本物理学会の国際化が必要
- ・外国人研究者やポスドクが増加している。日本物理学会は日本にいる研究者の学会であるという認識が必要。
- ・日本の研究内容を世界に知らせるためには国際化が必要。最近は英語セッションが少なくなっている。

今後の計画

・英語プログラムの作成。申込み時の英語情報を用いて WEB 上にプログラムを作成する。予算を考慮し WEB 配信する。

・近隣諸国との合同シンポジウム

・サバティカル研究者によるチュートリアル講義

2-1) 領域代表から (領域 11 代表: 出口哲生)

領域 11: 物性基礎論・統計力学・流体物理・応用数学・社会経済物理

領域 11 は、発表件数はポスターを含めて 400 件あり、最大の領域である領域 8 の 500 件につぐ 2 番目に大きな領域である。問題はいろいろな分野が入っていることであり、領域の名称が長い 25 文字の名称になった。この領域は分割できるであろうが、研究者人口の問題が生じる。シンポジウムに関しては各分野から 1、2 件ぐらいなのでプログラムは作りやすい。一方、若手賞の選考が、分野が広いために、非常に大変になっている。英語化問題に関して、違う分野の人の発表を集める英語セッションでは効果がない。タイトルを英語にするのに加えて、パワーポイントを英語にすることは有効であり、まずは義務でなく推奨してみればよい。院生が英語で講演するのであれば講演時間を増やしてもよい。教育としての話ではなく、段階的に英語の講演が増えるような施策を行うのが良い。

2-2) 領域代表から (領域 6 代表: 乾雅祝)

領域 6: 金属 (液体金属・準結晶)・低温 (超低温・超伝導・密度波)

領域 6 では、領域に略称を付けるという話に対して反対の意見が出ている。この領域は、金属分科と低温分科の一部が合わさって形成された経緯がある。インフォーマル・ミーティングは別に行っており、代表は両方のインフォーマル・ミーティングをはしごしている。金属分科の出身者は“金属”という名称に愛着があり略称あるいは分野名から“金属”の名前が消えるのには反対である。一方、超低温・超伝導・密度波のグループでは“低温”が同じ意味をもつが、低温を専門とする運営委員は複数の領域にまたがっており、領域 6 で“低温”という名前を使うには批判がある。折衷案として、全て省略せずに記述すればよいであろうと考え、金属と低温の後ろに括弧づけで主な分野をつけるという現在の名称になった。若手賞の選考は、領域 6 は大きく 4 つの分野があるので、選考委員はそれぞれの分野に偏らないように決めている。若手賞候補者は基本的に業績が賞にふさわしいかどうかを優先して判断しており、特に分野のバランスを考えることは行っていない。英語講演に関しては、インフォーマル・ミーティングでパワーポイントはできるだけ英語表記すると申し合わせしている。ベテランの先生はできるだけ英語表記のパワーポイントで発表しているようだ。

3) 質疑

(福山・東京理科大): 領域制度を導入するときに“分科”を、流動性を持たせる“領域”に変えた。領域の学問テーマは 3 年ないし 5 年とし、領域のリーダーが全部集まる際に、絶えず研究活動に合わせた分け方をする申し合わせ事項を入れた。「その後、作業はどうなったのか？」先ほど、領域の名称と中身を示すと説明があった。“中身は常にテーマが最適ところでグループ化する”のが基本である。サイエンスの場合、テーマは絶えず変わっていく。領域だけが固定されるのは、最初の議論と違う。「領域の中身はどう検討されているか？」

(大塚・筑波大)：領域4の代表をしていた時期に、福山先生が制度を変えられたのを憶えている。領域代表会議の中でその議論があるだろうと思って領域代表を引き受けたが、一切、議論が行われなかった。それが一番問題だったと思う。

(福山・東京理科大)：一回目はしっかり議論した。全員が集まり、領域の中身をそれぞれ議論した。さらにシンポジウムや招待講演者を吟味した。

(大塚・筑波大)：領域再編が、領域代表で議論されなかった一つの原因は、素核の方は問題意識が全くないので、全体の代表会議で議題にならない。番号制の領域代表会議の中で議論できるように作らなければならない。研究者が集まり新しい分科ができることは、以前は起きていたが、番号制ではこれが起きていない。番号制はかなり問題を起こしている。例えば、以前は磁性半導体研究者は物理学会に参加していたが今はほとんど参加していない。量子情報関係も、以前は物性にあったが、現在では量エレに移った。グラフェンは応物に移行した。これらの原因の一つとなっている。

(播磨・神戸大)：当時、学会の理事を務めており、倉本会長からの指示のもと、昔の学会誌から経緯を調べた。先ほど福山先生が述べたことは学会の記事に書いてあった。分科会のときは新制の領域でやり、年会のときには以前の分科会でやるのが最初の方針であった。一回これを行っているが、途中で、分科が全て廃止された。廃止理由は事務的に無理があるので分科会はやらず全て領域でやると書いてあった。その際に、領域再編の話が放置された。そのとき、素核では何も制度を変更していない。物性は領域で素核は分科で行っていた時期がある。その後、物理学会の中で領域委員会を作ることになり、素核は名前だけ領域に変えた。こういう経緯で領域委員会ができていく。その後、若手奨励賞や代議員の推薦を全て領域が行うようになった。以上のように今の領域の番号が固定化された。最初の精神は、流動性を持たせるため番号制にし、分科と領域を縦糸と横糸にして再編を流動的にすると書いてある。ただし、これが途中で飛んでしまった。

(石田憲二・日本物理学会理事)：先ほど紹介した8月の理事会の意見承認案では、「番号の後ろにつける分野は随時変更してもよい。新分野の設定や領域再編を促すため、毎年の年次大会のときに変更が必要ないかどうかを領域内で議論していただく」と新たに書いた。領域委員会が6月に開催されて領域代表が集まる時に、必ず、今ある領域でよいかを話し合いを、「領域内にある研究の種類を最低年に1回は見直していく」ように領域委員長にお願いするようにしたい。

(倉本・東北大)：今回の案で、取りあえずは分かりやすくなるという点はクリアしているが、元に戻っただけのこと。最初に領域制にしたときの流動性をどうやって担保するかについては、領域代表が今の枠内で集まっても何事も起こらないと思う。若手賞が完全に領域の枠組みの中で育ってしまったので、これを変えるのは大変だという領域代表の話がある。これは変えないと流動性はできないだろうと思う。関係者の方々が、非常に多大な時間をかけていただき、少なくとも元に戻った。外から見ると、この領域は何をやっているのかが見えるところまではいったが、ここで終わらすべきではない。

(石田・委員長)：研究者が他学会に流出するに関して、具体的な見直しでキーワードを入れるのが対策の一つになるのか？

(福山・東京理科大)：今の話は重要。学会がしっかり学問分野の活動をうまく取り込んでないために、研究者が物理学会から他の学会に逃げていっているということ。これは先ほど田島さんが指摘されたマ

スタープランに物性コミュニティから提案が出ていないということと同じではないか。物性物理コミュニティが中心になって活躍しているようなテーマが、学会のマスタープランに他の分野から提案されている。結果的に、物性物理で重要なプランが採択されているが、研究活動という観点からすると今後が危惧される。“そういうことが起こらないように、それを防ぐためにはこれからコミュニティがどうすべきか考えてほしい”ということを田島さんは先ほど提案されたのではないかと？

(田島・学会議員/物一分科会委員長)：その通りです。

(福山・東京理科大)：これをコミュニティがしっかりと受け止めて、次の具体的なアクションを考えないと、どんどんお客が逃げていく。今だったら、まだ止められるのではないかと。そういうときに全国共同利用研の役割が当然ある意味クローズアップされるのではないかと。これらは学会のプログラムや領域制などとつながっている問題なのではないかと？

(田島・学会議員/物一分科会委員長)：番号制にしてしまうと、番号のあとに分野の説明がついていなかったら、いる人たちが固定されてしまい、流動性がかえって阻害されないでしょうか？

(福山・東京理科大)：その通りです。だから、毎回変えると議論した。

(田島・学会議員/物一分科会委員長)：例えば、領域8ですと、ずっといる人たちは領域8にしようと思う。新しいテーマ、例えばトポロジカルが出てきたら領域8に入れてしまえば、ずっと領域8のままでメンバーが変わらない。かえって組換えを阻害していませんか？

(福山・東京理科大)：運用の問題になる。

(石田・委員長)：番号の問題に関しては、さきほど石田理事が、次の領域委員会で継続的に議論してほしい、見直しも続けてほしいということでした。福山先生がおっしゃったことは、この拡大物性委員会に参加者を増やして、できるだけ活発にやっていきたいと思っております。幹事会は、選挙で選ばれた幹事、学会との連携を進めていただく田島先生と家先生も加わります。非常に限られた時間ではありましたが、お話になられた田島先生、石田先生、出口先生、乾先生ですね。それから会場みなさんに活発に議論していただいて、非常に良い機会であったと思っております。

(山田・KEK 物構研)：田島先生が言われていた大学の法人化後、人材の流動やさまざまな情報の局在化が起きている。私が所属する研究所でも、研究所と大学の間での人の行き来が固定化し始めている。流動化をもう一度促進させるような機能を物理学学会や他の学会に持たせることができないだろうか？学会をある種のハブ的なものにするのを考えなければならないかとも思っている。個々の大学が物理学学会に情報を流して、一緒に連携を組むことができれば、非常によい。

(村田・大阪市大)：大塚さんから、領域代表会議でそのような話が一切なかったという話がありました。私も2回そういう会議に参加しましたが、プログラムが事務的な話でみっちり詰まっていたので5時になったのでそろそろ終わりますということになる。領域代表会議のプログラムを作るときに領域代表が口を出してやらないと一向に進まないと思う。領域代表の代表と作って、それを議論する場を設けないと一向にこういった議論は進まないと思う。

(石田・委員長)：今のご提案は石田理事に宿題としてお渡ししますのでよろしく申し上げます。

5 その他

特になし。

6 終了・散会

以上。

物性委員会幹事会

開催日時：2014年8月23日（土）13:00～15:00

開催場所：大阪府立大学 I-siteなんば 2F S1室

幹事出席者（敬称略）：野尻、石原（東北大）、大塚（筑波大）、家、上田、前田（東大）、西田（豊田理研）、伊藤（名大）、村田（阪市大）、田島（阪大）、播磨、藤（神戸大）、中西（九大）、村上（高エネ研）、出口（お茶大）

オブザーバー：瀧川（東大物性研）

事務局：石田、田中、加藤、戸川、渡部（大阪府大）

計21名

幹事欠席者（敬称略）：野村（北大）、古崎（理研）、高木（東大）、西森（東工大）、前野、早川（京大）

配布資料

- ・京大基研共同利用委員等の推薦に申し合わせ事項変更案
- ・東大物性研からの物性研人事選考協議会委員の推薦依頼状及び現在の委員リスト
- ・各種推薦委員選挙結果履歴（物性研人事選考協議会委員，物性研協議会委員，物性研共同利用施設専門委員会委員，京大基研運営委員）
- ・物性グループ名簿（2014年8月6日現在）

<はじめに>

- ・事務局長より開会の挨拶
- ・事務局長より配布資料に記載の各議題の要点を説明
- ・物性委員長より挨拶。事務局の体制、幹事の職務を説明

<議題>

1. オブザーバー参加（物性研所長）

事務局から提案され、承認された。

2. 会計監査委員（西田、石原）

手続きが遅れて2014.4より依頼したが、事務局引継ぎ時の2012.10にまで遡り、監査委員に就任することが承認された。

3. 共同利用委員等の推薦に関する申し合わせ事項の変更

（本議事録末尾に改訂申し送り事項を資料として添付）

趣旨：京大基研共同利用委員等の推薦方法などに対応した。

京大基研：分野のバランスを考慮するため“枠”を明記する。

主として統計力学 → 2名（1+1）

主たる研究分野を限定しない（物性物理学） → 5名（3+2）

<幹事コメント>

統計力学を専門とする研究者が物性グループから脱退する傾向がある。

対策が必要ではないか？ → 継続的に検討する。

4. 「東大物性研人事選考協議会委員」（2名：物性物理2名）の推薦のための投票

まず、選挙に関する注意を確認した。（敬称略）

- 1) 西森秀稔（東工大理工）、樽茶清悟（東大工）（任期 2013. 4. 1～2015. 3. 31）の後任委員の選出で、任期は 2015. 4. 1～2017. 3. 31 である。その他に、田島節子（阪大理）、田仲由喜夫（名大工）、島川祐一（京大化研）（任期 26. 4. 1～28. 3. 31）が物性委員会推薦委員として応職中。
- 2) 今回は、物性物理学分野から2名、物理化学分野から0名を推薦する。実験と理論のバランスも配慮する。
- 3) 物性グループから推薦された新委員は専門分野の代表としてではなく、全分野的視野に立って高い立場から物性研究所の教員人事に参画する。
- 4) 年齢は委員の任期中に65歳（東大の定年）を越えないこと。
- 5) 「物性研研究所協議会委員」、「共同利用施設専門委員会委員」との重任を避ける。（「共同利用施設専門委員会委員」リストは各グループの物性委員に送付済、「物性研研究所協議会委員」（★2008以降は学術会議が推薦★）は添付ファイルを参照）
- 6) 2年を超えて、引き続き連続して人事選考協議会委員に就任することは避ける。
- 7) 同一大学同一部局に所属する委員が含まれないように選出する。
- 8) 幹事会では、まず候補者のノミネーション（欠席の幹事から寄せられたノミネーションも含む）を行う。
- 9) 幹事会での投票により推薦候補を決定する。
- 10) 推薦された候補者には、物性グループ事務局より意志確認を行う。
- 11) 物性委員会より物性研へ推薦する（2014. 10. 31ㄨ切）

次に、投票権をもつ幹事17名の出席を得て、以下の手順で選出した。

- ①幹事によるノミネーション。参考資料として、物性委員の名簿を回覧した。
- ②ノミネーションより選挙リストを作成した。

物性物理：18名

- ③第一回投票（有効投票数：幹事17名×各2名を記入）

物性物理：8名 を選出

* 重複事項に該当する小川氏を除外

④第二回投票（有効投票数：幹事17名×各2名を記入）

物性物理：川上氏（京大・理論）、高畠氏（広大・実験）

次点として、

物性物理：石原氏（東北大・理論）、新井氏（原研・実験）を選出した。

辞退者などで変更があった場合は、次点のリストから事務局の責任で抽選により選出する。

この手順を、幹事会として承認した。

<幹事コメント>

物性研究所人事選考協議会における所外委員の役割を明確にしてほしい。

→物性研の設立の経緯まで遡る話しになる。もともと、学術会議からの勧告を受けて、

コミュニティの意見を取り入れるために設けられた制度であり、その役割を

物性グループが請け負うことになった経緯がある。

制度の運用に修正が必要なら随時検討することとする。

5. 事務局からの連絡

事務局長より拡大物性委員会（9月7日）の議題を説明し、承認された。

- ・事務局報告
- ・物性研の現状・課題・将来（物性研所長 瀧川仁氏）
- ・学術会議からの提言（学術会議連携会員 伊藤公孝氏）
- 「我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会」より
- ・その他

6. 物性研将来計画について（瀧川氏）

所内での議論を紹介する。主な内容は次の通り。

- ・共同利用・研究拠点の状況
- ・研究部門の将来計画
- ・課題

状況

2010.4 共同利用・共同研究拠点の運用開始(2008 制度設計)

2013.9 中間評価でS評価

(主なコメント)大型施設との位置づけ、世界最先端研究の実施、近接分野の研究機関と連携

2015 最終評価、次期拠点申請、外部評価、

構成

4つの研究部門（縮小傾向、人員削減）と 5つの付属施設（拡大傾向、人員確保）

連携図

一目でわかる slide (mission を紹介する図) を作成

【物質設計評価施設】

合成・評価部（年あたり約 100 件の利用がある）と設計部（年あたり約 220 件の利用がある）

【国際超強磁場科学研究施設】

阪大強磁場センターとの一体運用を開始した。

【中性子科学研究施設】

2011.3 大震災後、研究の一部を海外で実施した。

【極限コヒーレント光科学研究センター】

レーザーと放射光と自由電子レーザー

【計算物質科学研究センター】

京コンピュータの活用、ポスト系の重要課題を選考中

2014.2 元素戦略シンポジウムを開催

URA の配置

2013～2017 部局研究強化促進事業

全般的な研究支援（広報・出版・プレス・アウトリーチ）

プロジェクト支援、国際連携、国内研究機関・コミュニティとの情報支援

将来計画

柏キャンパス計画

キャンパスを拡大中、人口を増やしたい

2016 次期拠点計画

大学の機能強化への貢献（共同研究推進のハブとしての役割と矛盾？）

グローバル化への対応（国際的な頭脳循環のハブ）

Hard のみならず、新しい Science の発信

物性研究拠点として

部門横断型の研究グループ I、II の設置

研究部門（Small Science）の役割

部門の多様な発想を核とし大型施設を有効に活用する仕組みを設ける

横断グループの構築（理論と実験の連携）

部門横断型の研究グループ I

強相関電子系。新量子相レクチャー・シリーズの実施

部門横断型の研究グループ II

伝統的な固体物理外の分野の連携を図る。ボトムアップミーティングの実施

課題

運営費交付金の減少。電気代の高騰などは、Super Computer の運営を直撃している
共同利用・共同研究拠点のより効果的な在り方、有効な運用。

新たな mission の発掘、コミュニティの拡大

国際ハブ、分野振興、産学連携（海外・企業研究者も対象とする？）

共同利用課題の国際公募

<幹事との質疑>

・共同利用・共同研究拠点の在り方に関連して。

人事交流・流動性の観点から人事システムの改革案（クロスアポイントなど）はあるか？

→（所長）検討項目にしていきたい。すでにある枠組みも使い人材交流を図る。

・物性研究所人事選考協議会に関して、役割の明確化

→（所長）コミュニティの意見を取り入れるようにしたい

・グローバル化に関して

→（所長）国際公募。英語 proposal の導入（柏キャンパス内での実施をどうするかが課題）

・企業との共同研究実績がない。policy か?産業界の activity 低下もあるので実施しては？

→（所長）日本としての方針を定めるべき。計算科学分野では実施している。

成果の公開・非公開などの問題。特に生物系の場合は成果の取り扱いが重要になる。

・各大学の将来計画とのバッティングはないか？

→（所長）拡大物性委員会などでの協議事項としたい。

7. 学術会議との連携について（田島氏）

物性グループの在り方と関係するが、大型研究計画を立てる際の議論の場として活用できる。

・マスタープランの作成：今後も続くはずである。

・マスタープランの性質：予算の保証はない。どのような反応があるかは分からないが、
第1回は文科省からの反応があり、第2回は重点化された。

・マスタープラン作成の頻度：

2期毎（6年、3年）に1回提出すべき（その後、3、4課題に絞られる）

そのためには定常的な議論を行っておくことが必要となる。

・各分野の状況：

【素・核】コミュニティ内で常に議論。手持ちのテーマが数多くあり、順位付けも終わっている。

【化学】良い例は“元素戦略”。重鎮が合宿形式で集まり議論。言葉を創り、政府に仕込んだ。

【工学】アピールしやすい。

【物性】同様の文化がない。しかし、研究にお金が必要ということではない。

過去には物性研をつくった実績がある。

追われて行動するのではなく、定常的な議論の場を設ける。

・ 具体的な案：

1. お金を取りやすいのは大型施設。大型施設を核として、その周辺に物性テーマを埋め込む。

例) 中性子、X線、放射光で“何”をやるのか？

何(どの)の部分に物性コミュニティが参加するか。

2. 日本各地に物性研究拠点を形成(昔でいうところの国分寺計画)

物性研：大型施設+小型装置、物性研にいけば何でも測れる。

→

地方ごとに研究拠点を形成し、物性コミュニティに開放する。装置の共有化。

実際問題として、地方にまたがる移動は大変。日帰りが可能な範囲で拠点を形成。

中小規模大学・研究機関を活性化。

< 幹事との質疑 >

・ (委員長) 物性委員会は政府とのつながりはなく、実行力は伴わない。

一方、学術会議は政府とのつながりがあり、会員はトップダウン的に選出される。

相補的に活動できるように物性コミュニティとして連携を強化したい。

・ 物性研に行かなくても研究ができるというのはとてもよいアイデア。

研究促進を助ける仕組みになる。

・ 関連して、中小規模の大学・研究施設では研究を進める上で数多くの問題が生じている。

インフラが不平等という現実が各地に広がっている。問題を限定させると、例えば、

“図書”は大問題である。BRICSでは国が契約しているという例もある。ある意味、

“図書”は大型施設と同格である。国家レベルで検討してほしい。

→ 為替の影響も甚だしい。ダウンロード数に応じて価格が高騰する(受益者負担)。

交渉のプロが必要である。

→ (家委員) 学術会議内ではコンソーシアム形成(全国的な交渉窓口)の検討がある。

分野ごとの温度差や、また、Open accessなど多様な考え方があり難しい問題である。

→ (委員長) 物性グループで、継続して議論する。

・ 国分寺計画：Localな拠点形成を行うという提言であった。拠点整備計画より20年たっており、現在では体制などが大幅に変わっている。HPから削除するか、革新すべき。議論してもよいのでは。

→ (委員長) 拠点計画。物性委員会と学術会議の両方のHPに残っている。

物性グループで、継続して議論する。

8. その他

・物性グループの在り方：何をするとするか、はっきりすべきでは。

→（委員長）重要な場として機能するように、活動していきたい。

・物性グループへの参加に関して：

（京大基研）利用するには物性グループへの登録が義務となっている。

（東大物性研）同様の登録義務はない。

共同利用している人に物性グループに参加してもらうのも一案ではないか。

→（物性研所長）検討したい。

→ユーザーの規模の問題もある。共同利用者に提案や希望する程度に留めるべきでは。

議事録資料：（下線を付したところが改訂部分）

共同利用委員等の推薦に関する申し合わせ事項

（2007. 9. 22 拡大物性委員会後の最終決定版）

（2009. 3. 27 同一部部局制限の追加）

（2014. 8. 24 幹事会にて基礎物理学研究所の選考方法を修正）

1. 東京大学物性研究所の人事選考協議会委員の推薦は、物性委員会の幹事の投票によって行う。原則として得票数の多い順に推薦を行うが、物性委員会幹事会を招集して、物性物理分野と物性化学分野、理論と実験のバランス、任期中に東大の定年を越えない、各種委員との重任を避ける、連続就任を避けるなどを議論したのち最終的な推薦順位を決定する。
2. 京都大学基礎物理学研究所の運営委員については、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。選出人数は、基研運営委員、基研共同利用委員共に、主として統計力学を研究する分野（統計力学分野）から2名（正候補者1名+補欠候補者1名）、主たる研究分野を限定しない分野（物性物理学分野）から5名（正候補者3名+補欠候補者2名）とする。原則として、統計力学分野の1位を正候補者、2位を補欠候補者、物性物理学分野の1位～3位の3名を正候補者、4位～5位の2名を補欠候補者として推薦する。
3. 上記1と2以外の共同利用委員の推薦は、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。ただし、同一部局（研究科レベル）から複数人の推薦は行わない。推薦定員数内の得票数上位に同一部局の者がある場合、それらのうち二位以降の候補者を除外し、異なる部局に属する次点以下の候補者を順次繰り上げて推薦する。
4. 上記2と3の投票に際して、物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。リストの候補者数は、各共同利用委員への推薦人数の2倍以上とする（各共同利用委員推薦人数は、東京大学物性研究所共同利用施設専門委員：9名（隔年で、9名中1名あるいは2名を物理化学分野方選出）、京都大学基研運営委員：4名、京都大学基研共同利用委員：4名）。候補者の登録は物性委員3名以上の賛同をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することとする。また、物性委員長は必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。物性委員は、投票に際して、候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。

5. 東京大学物性研究所人事選考協議会委員および京都大学基礎物理学研究所運営委員に推薦された者は、その他の共同利用委員を辞退することができる。その場合、その他の共同利用委員選挙で次点以降を繰り上げて各共同利用機関に推薦する。

物性委員会幹事選挙について

(2009.7.11 幹事会承認)

1. 物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。ただし、同一部局（研究科レベル）から三人以上の推薦を行わない。推薦定員数内の得票数上位に同一部局の者が三人以上ある場合、それらのうち三位以降の候補者を除外し、異なる部局に属する次点以下の候補者を順次繰り上げて推薦する。
2. 再選制限はない。
3. 物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。候補者の登録は、物性委員3名以上の賛同をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することとする。また、物性委員長は、必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。物性委員は、投票に際して候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。

委員会	時期	改選数	推薦選挙母体
物性研人事選考協議会委員 (任期2年)	8月中旬委員推薦	就任が奇数年4月(幹事会推薦が偶数年)に2名 (物性物理分野2名) 就任が偶数年4月(幹事会推薦が奇数年)に3名 (うち物性物理分野2名、物理化学分野1名)	物性委員会幹事会
物性研共同利用施設専門委員 (任期2年)	8月中旬推薦依頼 (11月中旬推薦回答)	就任が奇数年4月(選挙が偶数年)に9名 (うち物性物理分野7名、物理化学分野2名) 就任が偶数年4月(選挙が奇数年)に9名 (うち物性物理分野8名、物理化学分野1名)	物性委員会委員全体
京都大学基研運営協議会委員 (任期2年、連続3選禁止)	8月中旬推薦依頼 (10月中旬推薦回答)	就任が奇数年8月(選挙が偶数年)に4名(+補欠3名) (4名のうち物性物理分野3名、統計物理1名) (補欠3名のうち物性物理分野2名、統計物理1名)	物性委員会委員全体

<p>京都大学基研共同利用運営委員 (任期2年、基研運営委員以外)</p>	<p>8月中旬推薦依頼 (10月中旬推薦回答)</p>	<p>就任が偶数年12月(選挙も偶数年)に4名(+補欠3名) (4名のうち物性物理分野3名、統計物理1名) (補欠3名のうち物性物理分野2名、統計物理1名)</p>	<p>物性委員会委員全体</p>
<p>物性委員会幹事 (任期3年)</p>	<p>8月</p>	<p>18名(新旧の委員長、事務局長、学術会議から推薦される幹事を含まない幹事) 次期(2015年10月~2018年9月)を2015年9月までに選挙</p>	<p>物性委員会委員全体</p>

拡大物性委員会（物理学会インフォーマルミーティング）

2014年9月7日(日) 18:00-20:00

日本物理学会 2014年秋季大会 中部大学 BA会場

[出席者(敬称略、50音順)]

井原(北大理), 石原(東北大理), 須藤(東北大理), 柴田(東北大理), 倉本(東北大理), 野尻(東北大理), 野島(東北大金研), 米永(東北大金研), 小池(東北大工), 椎名(新潟大工), 矢嶋(宇都宮大工), 川北(原子力機構 J-PARC), 社本(原子力機構), 前川(原研先端研), 藤井(CROSS 東海), 鈴木(CROSS 東海), 佐藤(CROSS 東海), 兵頭(KEK 物構研), 門野(KEK 物構研), 山田(KEK 物構研), 大塚(筑波大), 伊賀(茨城大理), 遠山(東理大), 長嶋(東理大理), 福山(東理大総研), 岸根(放送大教養), 古崎(理研), 瀧川(東大物性研), 徳永(東大物性研), 鈴木(東大物性研), 上田(東大物性研), 加藤(東大物性研), 家(東大物性研), 小森(東大物性研), 益田(東大物性研), 為ヶ井(東大工), 出口(お茶大理), 栗原(早稲田大理工), 大熊(東工大理工), 東(東工大応セラ研), 斯波(東工大 0B), 阿部(電通大), 松川(青学大理工), 秋光(青山大理工), 伊藤(名大理), 伊藤(核融合科学研), 早川(京大基研), 吉村(京大理), 前野(京大理), 佐々木(京大低温), 田島(阪大理), 萩原(阪大理先端強磁場), 村田(大阪市大理), 坪田(大阪市大), 野口(大阪府大21機構), 篠塚(和歌山大シス工), 播磨(神戸大理), 籾(神戸大理), 小島(神戸大工), 太田(神戸大分子フォトセ), 木下(JASRI/SPRING8), 野原(岡山大), 宇田川(広島大総合), 鈴木(広島大先端物質), 高畠(広島大先端物質), 本山(広島大先端物質), 藤原(島根大総理工), 磯田(香川大教育), 中西(九大理), 赤井(熊本大パルス研), 細川(熊大自然), 小山(鹿児島大理)

事務局:

石田武和(大阪府大工), 田中智(大阪府大理), 加藤勝(大阪府大工), 戸川欣彦(大阪府大工)

計 76 名

配布資料

- ・物性研 報告
- ・高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所 報告
- ・J-PARC/MLF 物質・生命科学実験施設(新井、瀬戸、横溝)
- ・京都大学基礎物理学研究所報告
- ・拡大物性委員会討議用 当日配付資料(物性グループ事務局)

議事次第

1. 18:00 事務局挨拶 (委員長: 石田武和) 5分
2. 18:05 事務局報告 20分
 - 1) 会計・会員状況の報告、会員更新・新規加入の案内

- 2) 会計監査委員の承認
 - 3) 共同利用委員等の推薦に関する申し合わせ事項の変更
 - 4) 東大物性研人事選考協議会委員の選挙結果（幹事会）と推薦
 - 5) 東大物性研共同利用施設専門委員会委員の選挙結果（物性委員）と推薦
 - 6) 京大基研運営協議会委員の選挙結果（物性委員）と推薦
 - 7) 京大基研共同利用運営委員の選挙結果（物性委員）と推薦
3. 18:25 緊急アピール「大学等における電子ジャーナルが自在に使える環境の確保に関する提言（仮題）」（案）（趣旨説明 10 分、質疑 10 分）幹事会起草 WG 長 村田恵三
 4. 18:45 「我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会」からの提言について（論点整理 25 分、意見交換 10 分）学術会議連携会員 伊藤公孝
 5. 19:20 物性研の現状・課題・将来（紹介 20 分、質疑 10 分）物性研所長 瀧川仁
 6. 19:50 その他（10 分）
 7. 20:00 終了・散会

議事

1 事務局挨拶（委員長：石田武和）

事務局運営が2年経過し残り1年となったことを述べた後、議題3-5の概要が説明された。議題4は1年前に行われた五神氏の講演に関連していること、議題5は前事務局よりの引き継ぎ事項であることが説明された。

2 事務局報告（田中事務局長）

1) 会計・会員状況の報告、会員更新・新規加入の案内

会員状況：グループ数184、物性委員209、メンバー983

会員数は事務局引継ぎ後に増加の傾向であったが、2014年4月の会員更新時に引継ぎ時の水準に戻った。旧会員へのフォローアップを行うことが説明され、物性委員に更新・加入の呼び掛けへの協力依頼が行われた。

会計：入金は会員会費振込みで～32万円、支出は幹事会の会議費・旅費などで～43万。現在の残金は158万1733円。

2) 会計監査委員の承認

会計監査委員を西田信彦氏（豊田理研）と石原純夫氏（東北大理）に依頼し承諾を頂いていることが事務局より説明され、会場より承認された。監査員の監査委員の任期は3年。事務局交代直後の拡大物性委員会で行う事項であり、監査は引き継ぎの時点に遡り3年間行うことが説明された。

3) 共同利用委員等の推薦に関する申し合わせ事項の変更

京大基研からの要請に基づき、申し合わせ事項を変更した。この件、会場より承認された。

共同利用委員等の推薦に関する申し合わせ事項

(' 14. 8. 24 幹事会にて基礎物理学研究所の選考方法を修正)

「京都大学基礎物理学研究所の運営委員については、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。選出人数は、基研運営委員、基研共同利用委員共に、主として統計力学を研究する分野（統計力学分野）から2名（正候補者1名＋補欠候補者1名）、主たる研究分野を限定しない分野（物性物理学分野）から5名（正候補者3名＋補欠候補者2名）とする。原則として、統計力学分野の1位を正候補者、2位を補欠候補者、物性物理学分野の1位～3位の3名を正候補者、4位～5位の2名を補欠候補者として推薦する。」

選挙に関する申し合わせ事項は事務局の引き継ぎ事項であり規約には明記されていない。“分野のバランスについて考慮する”という申し合わせ事項は以前よりあったが、アンバランスが目立つので、京大基研からの要請に基づきより具体的なものにした経緯が説明された。

4) 東大物性研人事選考協議会委員の選挙結果（幹事会）と推薦

2年間の任期満了に伴い、2名（物性物理分野2名）を改選。8月23日開催の幹事会において、ノミネーション、選挙を行った。

物性物理分野：川上則雄（京大理）、高畠敏郎（広大先端物質）

を選出。本人より内諾を得ている。会場より承認を受けたので、物性研に推薦を行う。

5) 東大物性研共同利用施設専門委員会委員の選挙結果（物性委員）と推薦

2年間の任期満了に伴い、9名（物性物理分野7名、物理化学分野2名）を改選。

ノミネーション：7月15日締切、投票：8月20日締切、投票率：69.4%（物性委員数209名、有効投票数145票）

1. 物性物理分野：前野悦輝（京大理）、楠瀬博明（愛媛大理）、萩原政幸（阪大強磁場）、坂井徹（原子力機構）、野尻浩之（東北大金研）、田中秀数（東工大理）、坪田誠（大阪市大理）

2. 物理化学分野：野原実（岡山大大理）、東正樹（東工大応セ）

を選出。本人より内諾を得ている。会場より承認を受けたので、物性研に推薦を行う。

6) 京大基研運営協議会委員の選挙結果（物性委員）と推薦

2年間の任期満了に伴い、7名（統計力学分野2名、物性物理学分野5名）を選出。

ノミネーション：7月15日締切、投票：8月20日締切、投票率：67.5%（物性委員数209名、有効投票数141票）

1. 主として統計力学を研究する

候補者 1名：田崎晴明(学習院大理)、補欠候補者 1名：川村光(阪大理)

2. 主たる研究分野を限定しない

候補者 3名：遠山貴己(東理大理)，石原純夫(東北大理)，小形正男(東大理)

補欠候補者 2名：宮下精二(東大理)，上田和夫(東大物性研)

を選出。本人より内諾を得ている。会場より承認を受けたので、基研に推薦を行う。

7) 京大基研共同利用運営委員の選挙結果（物性委員）と推薦

2年間の任期満了に伴い、7名（統計力学分野2名、物性物理学分野5名）を選出。

ノミネーション：7月15日締切、投票：8月20日締切、投票率：66.5%（物性委員数209名、有効投票数139票）

1. 主として統計力学を研究する

候補者 1名：中西秀(九大理) 補欠候補者 1名：香取眞理(中央大理工)

2. 主たる研究分野を限定しない

候補者 3名：押川正毅(東大物性研)，柳瀬陽一(新潟大理)，黒木和彦(阪大理)

補欠候補者 2名：常行眞司(東大理)，村上修一(東工大理)

を選出。本人より内諾を得ている。会場より承認を受けたので、基研に推薦を行う。

3 緊急アピール「大学等における電子ジャーナルが自在に使える環境の確保に関する提言（仮題）」（幹事会起草WG長：村田恵三）

幹事会(8月23日開催)で発議され、幹事会内のワーキンググループ(WG)で検討された草案をもとに議論を行った。

提言の要旨

私たちは、研究者として日常的に電子ジャーナルと接することで、大学のミッションを果たそうと努力してきた立場から、関係者の皆さまに、どの大学に所属していても、研究者が基幹的に位置づけられる電子ジャーナルを自在に使える環境を整備することの重要性を理解して頂き、強いご支援を賜りたい。とりわけ、第5期科学技術基本計画の中で、電子ジャーナルに関する環境整備の実現に向けた努力目標が謳われることを期待する。アカデミアが直面する危機を、幅広い層の皆様にご理解頂くことで、賛同と支援の輪を広げるために、物性コミュニティの声として、緊急アピールをする。

- ・ “主要雑誌を含めた雑誌の購入を断念する事態が各地の大学で起きている”という現状が紹介された。
- ・ 現状をそのまま放置することによる将来への懸念が指摘された。例えば、“産業界に供給される人材の多くが文献に自由にアクセスできない大学で教育されていること”や“関連して、学生が一部の大学に集中していくこと”が指摘された。
- ・ 問題の背景として、①競争的資金の割合の増加（運営交付金より大きい）、②社会情勢による各予算削減率の引き上げ、③雑誌購入費の削減、④ジャーナル購入費の値上げ（*過去5年間で3倍値上げした雑誌がある）などがあることが説明された。

- ・ 各大学では“本部購入と部局購入（受益者負担）のように雑誌を分類していることで対処していること”が紹介された。大学の規模に応じて受益者数が少なくなるため、中小規模の大学では負担が大きく、すでに対処の限界を超えている実情が説明された。
- ・ 世界各国の対応が紹介された。BRICs 諸国はナショナルサイトライセンスを採用し、ブラジル、ロシア、インドは大分前から実施しており、先進国でもドイツ、イギリス、フランス、オーストラリア、カナダなどで同様の動きがあることが紹介された。オープンアクセスなどナショナルサイトライセンス以外のアイデアが紹介された。

討議資料の文面などへの質問、大学の現状報告など、様々な視点から意見交換を行い、緊急アピールを行うことが会場より承認された。1) 事務局が拡大物性委員会で指摘された表現を手直しする。2) 事務局から物性委員会のメーリングリストに流し、意見を徴収し、まとめる。3) 幹事会に諮って最終版を作成する。随時、物理学会や物理学会会長に相談する。以上の方針が、会場より承認された。

<質疑>

(秋光・青山学院大)：この問題に関連する事柄の情報提供である。オーバードクター問題の対策として、産業界は奨学金を出すなどの活動を行っている。その中に特定の大学に限定した奨学金などがあり、個人を選ぶ仕組みにするように是正を提言すべきである。

(野尻・東北大金研/幹事)：① 声明の対象を関係機関となる大学や関連する学協会へのアピールとし、具体的なことを言わなければならない。② 電子ジャーナルをどこでも使える環境を作れるように第5期の計画に入れてもらうことが提言案の目標である。学協会や大学に現状を伝え、解決できる政策を進める形の提言にする。実態をよく調査して、2番目、3番目の提言を行っていくのがよい。

(兵頭・KEK/物理学会会長)：提言は具体性を欠いている。提言の目的は“ユーザーの受益者負担をどう実質化するか？”に要約される。負担なしに無料で使えるようにするシステムはあり得ない。外国の例も調査しながら、日本での道筋を具体的に明確にしていくべき。

(倉本・東北大学)：趣旨には賛成するが、非常に難しく短期間で解決するのは不可能。大学だけで解決できる問題ではなく、諸外国でうまくいっている訳でもない。ナショナルサイトライセンスは国家の研究者規模に応じて契約金額が変わるはず。ドイツが国家コンソーシアムで成功しているならば、そのモデルは非常に参考になるが、情報の真偽を慎重に調べる必要がある。

(石田・委員長)：ドイツの件は脚注[11]で、“DFG はライセンス契約費用として合計 990 万ユーロを供出し、これで合計 1,010 のデータベース、コレクション、アーカイブ等をナショナルライセンスで提供する”と紹介している。

(倉本・東北大学)：日本でもナショナルサイトライセンスの考え方はあるが、問題はその価格で折り合うかということになる。

(早川・京大基研/幹事/WG 委員)：有用な雑誌に対する費用の綿密な調査が必要である。ナショナルライセンスなどのコストは天文学的な数字になるはず。仮にできたとしても、必ずどこかにしわ寄せが行く。WG 委員の1人ではあるが、少し難しい印象を持っている。

- (家・東大物性研/幹事/学術会議副会長)：“緊急であること”また“非常に難しい問題であること”は理解できる。今回の提言は“誰を相手にして何をしてもらいたいのか”が明確でない。ナショナルライセンスは、大学が自分の裁量で雑誌を選ぶ権限を放棄することにつながる。諸外国の事例は詳細に調べた方がよい。アピールする心情は良いが、「何が起こるか」について考えるべきである。
- (兵頭・KEK/物理学会会長)：補足事項。“受益者負担”は、各大学に文科省から来ている雑誌購入費に相当するお金をどこかに還流して全体の解決をめざすという意味。この意味でも難しい問題である。
- (早川・京大基研/幹事/WG 委員)：AIP の社長と懇談したが、ナショナルライセンスには否定的とのこと。AIP は本年度と来年度で50%の値上げを行う。一方、オープンアクセスのジャーナルでは投稿料が高額になる。今後は、オープンアクセスの仕組みに移行するか、現状のように投稿料を無料にして雑誌代を高くするかに推移するであろう。雑誌社としては予算に応じた選択肢を用意することのこと。
- (石田・委員長)：8月の幹事会を契機に、幹事会で議論が行われた。幹事会の議論を通して“具体的な要望書”ではなく、“物性コミュニティが困っている状況に即して緊急アピールを行う”という方針となった。ナショナルサイトライセンスとオープンアクセスの択一をしようという趣旨ではない。また、物性委員会の役割は第3条にあり、今回の話題は物性委員会の守備範囲に入れてよい。
- (藤・神戸大/幹事)：素粒子関係の見解を紹介する。彼らは特に困っていないと発言しており、物理学会の会員でもスタンスが違う。また、素粒子分野ではプレプリントサーバーで対応できるそうだ。電子ジャーナルへのアクセスに物性分野ほど強い危機感を持っていない。一方、物性分野では“APSだけを購読するためにJPSJを止めた”、“APSのみに絞っておりIOPはもつての他”という大学がある。
- (村田・大阪市大/幹事/幹事会起草WG長)：「もし何もなかったら何もなかったと同じように見える」、「こういう問題を放置して良いのか」、「見て見ぬふりをして良いのか」と考え、最大公約数的な文章としてまとめた。まず物性分野の状況を紹介すれば、他からも同じような動きが出てくるのではないか。対策の一例としてナショナルサイトライセンスを挙げたが、ぜひともやろうとは言っていない。学内の理学部に聞いたところ、物性以外の物理分野から「そういう話があることだけでもぜひ出してくれ」と声が挙がった。
- (石田・委員長)：具体的な要望ではなく、緊急アピールという形で“物性コミュニティの人たちがどういった状況にあるのかということをお対外的にお知らせする”というアクションを取ることにに関して、ご意見を伺いたい。
- (兵頭・KEK/物理学会会長)：賛成する。その目的のために改稿が必要。特に外国の例は慎重に記載しなければならない。既にうまく対応している国もあるがその対応に日本は遅れているというようにも読み取れる。おそらく、どこの国でもうまくいっていない。“それぐらい大きな問題であり、何とか、何かしなければならない問題である”と明確に書く必要がある。
- (石田・委員長)：日本のアカデミアでもオープンアクセスを高めていくという議論があり、今後その延長で発展する流れが生じるであろう。今回の提言のように声を上げることによって、それ以外の動きも誘発されるのであれば、コミュニティとしてもアピールする意味はあるのではないか。ご指摘のように文章の手直しはまだまだ行わなければならない。
- (野尻・東北大金研/幹事)：まず緊急アピールを行うというのであれば、公約数のラインとして、“現

状は非常に危機的な状況になっており、大学によっては全くアクセスできなくなるということ”を強調する。その上で、“大学や所属に係わらずアクセスできるようにしないと研究が進まない”ということを経済にすれば良いであろう。

(石田・委員長)：拡大物性委員会で緊急アピールを出す方針が承認いただけたことに感謝する。

4 「我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会」からの提言について (学術会議連携会員/核融合研：伊藤公孝)

22期学術会議の課題別委員会“我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会”において1年半にわたって審議されてきた“我が国の研究力強化に関する人材の問題”に関する提言内容が紹介された。若手研究者が直面している緊急事態への対応を物理分野が中心になって議論してきたこと、今期はポストクの有期雇用・滞留・人材循環などの問題を明確にして解決への具体策作成の方向性を示すことに集中にしたこと、次期において具体的な設計の提言を期待する方針であることが説明された。

参考資料

“我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会”

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyujinzai/kenkyujinzai.html>

提言“我が国の研究力強化に資する若手研究人材雇用制度について”

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t201-3.pdf>

(*事務局注 提言は2014年9月29日に公開された。)

提言

- 1) ポスドク研究者の研究者としての位置づけ
- 2) ポスドク研究者の俯瞰的・持続的ポートフォリオの構築
- 3) 多様なキャリアパスの創出と促進
- 4) 新しい資格や職業の認定
- 5) 競争的資金PIに課する育成責任
- 6) 大学など研究機関の運営及び人事制度の改革
- 7) 大学院生の支援体制の充実
- 8) 新しい研究者組織の設計

講演のポイント

- ・ 若手人材育成に関する問題は“大学院の重点化”を機に様相を変えて来た。
- ・ “大学の法人化”により大学でのポストが減っており、特に、若手ポストの減少が著しい。“大学における人事制度の改革”が必要。
- ・ ポスドクは現在1万6千人近くおり、優れた研究成果を挙げている。
- ・ 研究成果が挙げられているように見えるが、現行のままでは我が国の長期的な知的生産にはつながらない。
- ・ ポスドクが特定機関へ集中し滞留している。研究費と同様の傾向であり、特定の法人へのポジティブ

ブフィードバックループが働いているといえる。

- ・ ポスドクのほとんどが有期雇用されている。キャリア展開へのルート整備が必要。
- ・ “ポストクの専念義務の弾力化”や“ポストクのキャリア育成の責任を明確にすること”が必要。
- ・ 当初の目的であった“大学からアカデミアや企業への人材循環”が達成されていない。
- ・ 企業への就職率は現在年率 1.5%程度。10 倍規模での産業界への研究人材の循環が必要。
- ・ 適切なマッチング施策を行えば研究人材の循環を促進できる可能性がある。“新しい職業を作ること”も効果的。
- ・ 博士課程への進学率の低下は深刻な問題。“進学率を高め、優秀な学生を育てること”が重要。
- ・ 学生やポストクに対する弾力的な支援体制を充実させる必要がある。
- ・ 人材育成の予算を有効に活用するために、科学的ビジョンをもってポートフォリオを作る必要がある。
- ・ “100 年スケールでの研究人材育成”をせねばならない。
- ・ 長期的には“優秀なポストクに対する全国的な研究者組織”を構築する必要がある。
- ・ 法人の垣根を超えて研究力を発揮できる大きな仕組みとすべきで、物性分野の共同利用や共同研究拠点の考え方は参考になる。
- ・ 高い能力を持ったポストクを選別し定年まで無期限で働ける資格を量的に設けることも一案。
- ・ 基盤的経費と競争的経費のデュアルサポートの強化を訴える必要がある。
- ・ 第 5 次の科学技術基本計画が議論されている。我が国の豊かさにつなげるための具体的な提言を物理コミュニティから発するべき。

<質疑>

(出口・お茶の水大/幹事)：フランス CNRS での人事制度が参考になるのではないか。

(伊藤・学術会議連携会員/核融合研)：フランスの CNRS やドイツのマックスプランク協会の人材制度を調べた。予算の一部を回せば同様の制度を作ることは可能。ただし、研究者や大学教授の区分けが生じる可能性があることを予め認識しておく必要がある。

(石田・委員長)：五神先生が 1 年前に紹介した“国家で雇用する研究員制度”との関連はあるか？今回の提言に含まれるのか？

(伊藤・学術会議連携会員)：大いに議論したが、議論の時間が足りないと判断し、今回は明記していない。具体的に踏む込んだ内容を提言すると、直ちに対応を答える必要が生じる。次期の学術会議の対応を期待している。

(石田・委員長)：東大でのクロスアポイントメント制度や雇用期間に関する特例法についてのコメントがあれば頂きたい。

(兵頭・KEK/物理学会会長)：JSPS 博士研究員のように、ポストクが国内外を問わず所属を変更できる制度を導入するのがよいのではないか。可能な範囲から始めてみればよい。

(伊藤・学術会議連携会員)：JSPS 博士研究員などのポストクの場合、選考が行われ全国的に優れた人が選択されている。このような制度は充実させるべきであると提言に書き込んだ。2 万人近いポストク

全体への対処としては、別のアプローチが必要である。

(家・東大物性研/幹事/学術会議副会長)：学術会議で“若手アカデミー”を組織しようとしており、その過程でポストク問題や若手のキャリアパスの問題が議論されている。クロスアポイントメントは人件費を浮かす反面、一人が複数の機関のポストを占有していることでもあり、パーマネントポストが寡占化されているという側面がある。

(石田・委員長)：物性委員会は学術会議との連携を強めることを方針として、学術会議委員に幹事として加わっていただいている。物性コミュニティへの要望や働きかけがあればお願いしたい。

(伊藤・学術会議連携会員)：まもなく報告書が公表される。ご覧いただき、具体的な提言を行うのに貢献頂きたい。

5 物性研の現状・課題・将来（東大物性研所長：瀧川仁）

研究部門の将来計画、および、物性研の課題 が紹介された。共同利用・研究拠点の状況は配布資料を参照。

<状況>2010.4に共同利用・共同研究拠点の運用が開始され、2013.9の中間評価でS評価を受けた。2015に最終評価、次期拠点申請、外部評価を行う。物性コミュニティで共同研究を推進するために共有する大型施設と位置づけられたが、“世界最先端研究の実施”、“近接分野の研究機関と連携”、“国際的な共同研究”、“新しいサイエンスの発信”が求められた。

<構成>4つの研究部門と5つの付属施設からなる。前者では多様な発想に基づくサイエンスを展開し、後者では大型装置のコミュニティへの施設提供を行っている。

<各施設の活動状況>【物質設計評価施設】、【国際超強磁場科学研究施設】、【中性子科学研究施設】、【極限コヒーレント光科学研究センター】、【計算物質科学研究センター】の施設毎に新しい試みを行っており、全体として共同研究や拠点としての新しい方向性を示している。それぞれの施設の活動の詳細は報告書を参照。

<2014 次期拠点計画>これまでは“大型研究施設による共同研究の推進”を主に行っており“人材育成”や“国際拠点”としての役割は少なかった。今後は、“共同利用・共同研究の推進による大学の機能強化への貢献”、“国際的な研究拠点”、“人材育成の拠点”としての役割を果たしたい。施設の更新・提供のみならず、新しいサイエンスの芽を全国へ発信する。また、各施設を有効に活用できる研究テーマを研究部門の中から提案し、研究所全体としての共同体制に発展させる。

<物性研究拠点として>

研究部門を再構成し、部門横断型の研究グループを設置する。前者では部門の多様な発想を核とし大型施設を有効に活用する仕組みを設け、容易にはできないサイエンスを展開する。後者では、トピカルな研究テーマを設定し、研究所全体を横につなげる研究グループ体制を構築する。研究部門から再配置するだけでなく、コアとなる専任の教員を配置する。

<課題>

運営費交付金の継続的な削減：電気代の高騰などが Super Computer などの運営を直撃している。

共同利用・共同研究拠点のより効果的な在り方と有効な運用。新たなミッションの発掘やコミュニティの拡大。

国際ハブ、分野振興、産学連携、共同利用課題の国際公募（海外研究者や企業研究者も対象とする？）。これらの標準化への対応。

<運営に関する外部委員の役割>

共同利用研の運営体制：物性委員会から委員が推薦されている（共同利用施設専門委員会と人事選考委員会）。

共同利用施設専門委員会：基本的に年2回の委員会の開催。中途申請（緊急の共同利用の申請）の書類審査。緊急性の根拠の明確化

人事選考委員会：所員（教授、准教授）の採用において、外部委員に求める貢献と責任が明確ではないとの指摘がある。人事提案の背景やプロセスを明確な説明し、将来計画の紹介を行うなど、前提知識の共有を図っていく。

<質疑>

（野尻・東北大金研/幹事）：1）共同利用拠点のネットワーク化への対応、2）大型研究施設などの扱いの物性コミュニティ内での調整、3）各大学が出している拠点計画との調整、を物性グループで2015年中に検討する必要がある。それを反映して、物性研や金研などの共同利用機関が計画を立てて運用していくべき。

（瀧川・東大物性研所長）：文科省では共同研究拠点の間の連携だけが指摘されている。実際は共同利用拠点の背後には物性コミュニティがある。コミュニティの現状を踏まえ、物性研や金研などの運用・連携を検討すべきだと考えている。

（田島・阪大/学術会議会員/物一分科会委員長）：大きな予算が必要な提案はなかなか通らない。まずは実績を作ることが肝要。その観点から、物性コミュニティが中心となって、互助的に、各地域に共同利用の装置を提供する場としてのバーチャルな共同研究所を組織してみてもよい。昔、学術会議が提案した国分寺構想が参考になる。化学の分野では同様の活動があるようだ。この枠組みの中核に物性研や金研や高エネ研などの共同研究所が参加すれば強力なものとなる。

（石田・委員長）：地域で研究のコンソーシアムを作るアイデアが競争的に採択され、一定のヘリウム代や支援スタッフの雇用費用などがサポートされる制度はよいと思う。学術会議の提言対象にはならないか？

（田島・阪大/学術会議会員/物一分科会委員長）：金額が少ないものは対象にならない。宇宙・素粒子のスケールぐらいの金額にならないと、マスタープランのようなものには載らない。

（瀧川・東大物性研所長）：北海道大学で、同様の試みが行われており比較的 successful しているという話がある。

（田島・阪大/学術会議会員/物一分科会委員長）：北海道大学ではボランティアで開始した装置の公開が現在では大規模になっており、北海道地域の大学や企業にも公開していると聞いている。共同研究や共同利用で遠方まで出かけるのは大変。声掛けするだけでも多くの参加者が見込めるのではないか。

(瀧川・東大物性研所長)：“企業から多少の使用料を頂いてメンテナンス代などに運用する”というインセンティブがあったとも記憶している。実状を詳しく調べて、システム化して運用していけばよいのではないだろうか。

6. その他

特になし。

7. 終了・散会

以上。

物性委員会規約

2006年3月27日制定

2007年9月22日改訂

2014年3月28日改訂

第1章 総則

(名称)

第1条 本会の名称を物性委員会という。これは従来の物性百人委員会を改称したもので、その事務局も任期までその任務を引き続き行う。

(事業所)

第2条 本会の事業所は事務局が所属する機関のある場所に置く。

第2章 目的及び事項

(目的)

第3条 本会は、物性分野の研究の発展を目指して、その分野における各種の意見調整やそれに基づいた提言、さらには親睦を図ることを目的とする。

(事項)

第4条 本会は、次の事項を行う。

- 一 全国の物性研究者間の連絡、意見交換の場を作り、必要ならば意見を集約し提言を行う。
- 二 日本学術会議の物性物理学・一般物理学分科会との密接な連絡を図る。
- 三 全国共同利用機関の各種委員の推薦等を、要請に応じて行う。
- 四 その他、物性分野の発展に寄与するための活動を行う。

第3章 会員

(会員および物性グループ、拡大物性委員会)

第5条 本会の会員は、全国で物性分野の研究・教育に携わる者で構成する各グループの代表者である。本会の会員が属する研究グループ全体をまとめて物性グループと呼ぶ。

- 一 代表者の人数は各グループの構成員として登録した人数に応じて別に定める。
- 二 必要に応じて物性グループ員なら誰でも出席できる会議を設ける。これを拡大物性委員会と呼ぶ。

(会費)

第6条各グループはその構成員数に応じて会費を納入しなければならない。会費の納入は、原則として3年一度とし、金額はグループの構成員数に応じて別に定める。

(入会および退会)

第7条会員として入会しようとするものは、委員長に申し込み、その承認を得なければならない。委員長は、会費を滞納した会員、または拡大物性委員会において理由を挙げて本会員として適当でないと決議されたものを退会させることができる。

第4章役員

(役員構成と事務局)

第8条本会に、役員として委員長、事務局長、および事務局員若干名を置き、事務局を構成する。事務局は物性委員会と物性グループの活動に必要な事務を行う。

(役員選出と任期)

第9条

- 一 物性委員長と事務局長の候補は幹事会(第16条)が推薦し、拡大物性委員会で決定する。
- 二 事務局員は物性委員長と事務局長が決定する。
- 三 役員任期は、3年とする。

(委員長の職務)

第10条委員長は本会を代表し、事務局構成員と協力して本会の運営を統括する。

(監査人)

第11条本会に会計を監査する監査人2名を置く。監査人は事務局を構成する機関以外の構成員から選出する。

(監査人の任期)

第12条監査人の任期は、3年とする。

(監査人の選出)

第13条監査人の選出は、事務局交替直後の拡大物性委員会で行う。

第5章幹事

(幹事構成と選出)

第14条本会に幹事を置く。

- 一 幹事のうち2名は委員長、事務局長とする。
- 二 その他の幹事のうち2名は、前委員長、前事務局長とする。
- 三 上記以外の幹事として、18名を物性委員会の選挙により、会員あるいはそのグループの構成員から選出する。

- 四 この他の幹事として、日本学術会議 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会の委員より、同分科会の委員長が推薦した2名以内の者に物性委員会委員長が委嘱する。
- 五 四項の幹事に空席が生じた場合には随時、新しく幹事を委嘱できるものとする。
- 六 四項の幹事であるものが、新たに一項から三項の幹事となることを妨げないが、その場合は五項の規定にかかわらず、当該幹事の四項幹事としての残任期間は空席として、新たな幹事を委嘱しない。

(幹事の任期)

第15条任期は事務局の任期と同じ3年とする。ただし、第14条四項の幹事は日本学術会議の委員の任期に合わせるものとする。

(幹事の職務と幹事会)

第16条幹事は幹事会を構成し、委員長および事務局と協力して本会の運営にあたる幹事会には、必要に応じて日本物理学会領域委員会物性領域代表、日本学術会議の物性関係委員、およびその他の適任者をオブザーバーとして加えることができる。

第6章 経理

(経費)

第17条本会の経費は各グループからの会費によって運営する。

(監査報告)

第18条監査報告は、原則として事務局交替直後の拡大物性委員会において行う。

附則

この規約は2014年3月28日より施行する。

共同利用委員の推薦に関する申し合わせ事項

(2007年9月22日承認)

(2009.3.27 同一部局制限の追加)

(2014.8.23 幹事会にて基礎物理学研究所の委員選考方法を修正)

(2014.9.7 拡大物性委員会にて修正了承)

(2015.3.9 幹事会にて物質構造科学研究所の委員選考方法を追加、物性委員会幹事選挙のやり方を修正、学術会議との連携にあたる幹事を追加)

(2015.3.22 拡大物性委員会にて了承)

1. 東京大学物性研究所の人事選考協議会委員の推薦は、物性委員会の幹事の投票によって行う。原則として得票数の多い順に推薦を行うが、物性委員会幹事会を招集して、物性物理分野と物性化学分野、理論と実験のバランス、任期中に東大の定年を越えない、各種委員との重任を避ける、連続就任を避けるなどを議論したのち最終的な推薦順位を決定する。
2. 京都大学基礎物理学研究所の運営委員については、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。選出人数は、基研運営協議会委員、基研共同利用運営委員共に、主として統計力学を研究する分野（統計力学分野）から2名（正候補者1名＋補欠候補者1名）、主たる研究分野を限定しない分野（物性物理学分野）から5名（正候補者3名＋補欠候補者2名）とする。原則として、統計力学分野の1位を正候補者、2位を補欠候補者、物性物理学分野の1位～3位の3名を正候補者、4位～5位の2名を補欠候補者として推薦する。
3. 上記1、2以外の共同利用委員等の推薦は、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。ただし、同一部局（研究科レベル）から、複数名の推薦は行わない。推薦定員数内の得票数上位に同一部局の者がある場合、それらのうち2位以降の候補者を除外し、異なる部局に属する次点以下の候補者を順次繰り上げて推薦する。
4. 上記2と3の投票に際して、物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。リストの候補者数は、各共同利用委員への推薦人数の2倍以上とする（各共同利用委員推薦人数は、東京大学物性研究所共同利用施設専門委員：9名（隔年で、9名中1名あるいは2名を物理化学分野から選出）、京都大学基研運営協議会委員：4名、京都大学基研共同利用運営委員：4名）。候補者の登録は物性委員3名以上の連名をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することができる。また、物性委員長は必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。物性委員は、投票に際して、候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。

5. 東京大学物性研究所人事選考協議会委員および京都大学基礎物理学研究所運営委員に推薦された者は、その他の共同利用委員を辞退することができる。その場合、その他の共同利用委員選挙で次点以降を繰り上げて各共同利用機関に推薦する。

6. 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所、運営会議委員の推薦（1名）は、物性委員会の幹事の投票によって行う。運営会議委員の任期は3年となる。原則として得票数の最も多いもの1名を推薦する。最多得票数が複数名いた場合には、年長者を推薦することとする。なお、物質構造科学研究所側から、推薦者に対する年齢制限、他委員との重任制限は無い。

物性委員会幹事選挙について

(2009. 7. 11 幹事会承認)

(2015. 3. 9 幹事会承認)

(2015. 3. 22 拡大物性委員会にて了承)

1. 物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に当選決定を行う。ただし、同一部局（研究科レベル）から3名以上の当選決定を行わない。推薦定員数内の得票数上位に同一部局の者が3名以上ある場合、それらのうち3位以降の候補者を除外し、異なる部局に属する次点以下の候補者を順次繰り上げて当選決定する。
2. 上記の「同一部局（研究科レベル）から3名以上の当選決定を行わない」の適用にあたり、第14条一（委員長、事務局長）、第14条二（前委員長、前事務局長）、第14条四の幹事（ただし、第14条一、第14条二、第14条三に該当しない場合）は除外するものとする。
3. 再選制限はない。
4. 物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。候補者の登録は、物性委員3名以上の連名をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することができるものとする。また、物性委員長は、必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。
5. 物性委員会事務局は、候補者に対して候補となったことを通知し、25文字以内で所信表明あるいは選出されれば受諾する旨の文書の提出を依頼し、提出があった場合は投票用紙に記載する。候補者から辞退があれば、リストから削除する。また、候補者に上記の依頼をする際、候補者が物性グループに参加していない場合は参加のお願いをする。
6. 物性グループ参加に同意されない当選決定者があれば、物性委員会規約第14条三により当選を無効とし、次点の者を繰り上げる。
7. 物性委員は、投票に際して候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。

(参考) 幹事候補者の所信表明等の例文

1. 物性コミュニティーの発展のために努力する。(21文字)
2. 物性分野の活性化のために尽力したい。(18文字)
3. 多忙につき、できれば幹事になることを避けたい。(23文字)
4. 地方大学の活性化のために積極的に声を上げたい。(23文字)
5. 私立大学の实情に基づき活動をする。(17文字)
6. 物性を他の物理分野に充分に対抗できるようにする。(24文字)
7. 物性にこそ国の支援による大型計画が必要と考える。(24文字)
8. 大学の基盤的環境の整備が重要と考える。(19文字)
9. 物性分野の国際交流が必要と考える。(17文字)
10. 選挙で選出された場合は幹事になることを受諾する。(24文字)

物性グループ登録メンバー(2015年3月現在)

No.	機関名	グループ名	メンバー
1	北海道大学	低次元電子物性	野村一成(電子物性), 松永悟明(電子物性), 延兼啓純(電子物性), 岡雄基(電子物性), 南館孝亮(電子物性)
2	北海道大学	低温物理学研究室	河本 充司(磁気共鳴)井原 慶彦(磁気共鳴)
3	北海道大学	物性理論I	根本幸児(統計力学), 奥田浩司(統計力学), 山梨顕友(統計力学), 小山将永(統計力学), 小松啓太(統計力学), 中井直人(統計力学), 羽州勝紀(統計力学), 須田裕介(統計力学)
4	北海道大学	物性理論II	北 孝文(物性理論), 筒井和政(物性理論), 植木輝(物性理論)
5	北海道大学	強相関	網塚浩(磁性), 柳澤達也(超音波物性), 日高宏之(高圧物性)
6	北海道大学	高圧物理学研究室	小田 研(電子物性), 吉田紘行(電子物性), 黒澤 徹(電子物性)
7	室蘭工業大学	室蘭物理	村山茂幸(強相関系,磁性),高野英明(磁性,強相関系),桃野直樹(超伝導系,強相関系),松元和幸(物性理論),雨海有佑(強相関系,磁性)
8	青森公立大学	物性グループ	佐藤和弘(物性理論・複雑系科学) 神山博 (物性理論・情報科学)
9	弘前大学	固体物理	渡辺孝夫(超伝導), 御領潤(物性理論), 任皓駿(強相関)
10	秋田工業高等専門学校	物理	金田保則(物性理論), 上林一彦(物性理論), 成田章(物性理論)
11	東北大学	金研低温物理	佐々木孝彦(低温電子物性), 井口敏(強相関電子物性), 橋本顕一郎(強相関電子物性), 伊藤桂介(光物性), 小林典男(超伝導物性)
12	東北大学	量子ビーム金属物理	藤田全基(超伝導), 鈴木謙介(超伝導)
13	東北大学	強磁場物性野尻浩之	野尻浩之(強磁場物性), 鳴海康雄(強磁場物性), 木原工(強磁場物性), 茂木巖(電気化学), 安村光正(磁性)
14	東北大学	分光物理	佐藤卓(磁性),南部雄亮(磁性),奥山大輔(磁性) 河村純一(固体イオン物理), 桑田直明(固体イオン物理) 木村宏之(構造物性) 坂倉輝俊(構造物性) 寺内正己(EELS, SXES), 津田健治(収束電子回折), 佐藤庸平(EELS)
15	東北大学	ナノ固体物理	谷垣勝己(ナノ物性), 下谷(有機半導体物性), 田邊洋一(超伝導), 平郡諭(炭素系物質), Khuong Kim Huynh(Dirac電子状態)
16	東北大学	物性理論	石原純夫(物性理論), 川勝年洋(物性理論), 倉本義夫(物性理論), 斎藤理一郎(物性理論), 越野幹人(物性理論), 柴田尚和(物性理論), 泉田涉(物性理論), 内田就也(物性理論), 中島龍也(物性理論), 村島隆浩(物性理論), 横山寿敏(物性理論), 大槻純也(物性理論)
17	東北大学	光電子固体物性	高橋 隆(光電子固体物性), 佐藤宇史(光電子固体物性), 相馬清吾(光電子固体物性), 菅原克明(光電子固体物性), 中山耕輔(光電子固体物性), 福谷圭祐(光電子固体物性)
18	東北大学	極低温科学	落合明(低温電子物性), 野島勉(低温電子物性), 木村憲彰(低温電子物性), 中村慎太郎(低温電子物性), 壁谷典幸(低温電子物性)
19	東北大学	低温・超伝導物理学	小池洋二(低温電子物性), 加藤雅恒(低温電子物性), 野地尚(低温電子物性), 川股隆行(低温電子物性)
20	東北大学	陽電子科学	永井康介(構造物性), 井上耕治(構造物性), 南雲一章(構造物性), 外山健(構造物性)
21	筑波大学	低温物理	大塚洋一(低温物理学), 神田晶申(低温物理学, ナノサイエンス), 森下將史(低温物理学)
22	筑波大学	強相関物性	守友 浩(強相関・二次電池物質), 小林航(強相関・二次電池物質), 東山和幸(表面), 柴田恭幸(二次電池物質), 高地雅光(二次電池物質)
23	筑波大学	物質工学実験	小島誠治(物性実験), 黒田眞司(物性実験), 中村潤児(物性実験), 松石清人(半導体), 所 裕子(物性実験), 金沢 研(物性実験), 近藤剛弘(物性実験), 森 龍也(物性実験), 秋山了太(物性実験)
24	筑波大学	物質工学理論	日野健一(物性理論), 竹森直(物性理論), 鈴木修吾(物性理論), 前島展也(物性理論)
25	筑波大学	超伝導・物性	門脇和男(超伝導・物性), 柏木隆成(電磁波物性), 南英俊THz分光)
26	産業技術総合研究所	産業技術総合研究所物性物理	相浦義弘(固体光物性), 池田伸一(低温物性, 物質開発), 伊豫彰(低温物性), 永崎洋(低温物性), 柏谷聡(低温物理), 柏谷裕美(低温物理), 川中浩史(固体物性), 鬼頭聖(固体物性), 白川直樹(固体物性実験), 田中康資(新物性, 新物質探索), 長谷泉(固体物性論), 柳澤孝(物性理論), 山口博隆(固体物理), 吉田良行(固体物性実験), 李哲虎(固体物性)

27	茨城大学	物性物理	伊賀文俊(物性実験), 五十嵐潤一(物性理論), 桑原慶太郎(物性実験), 佐久間隆(物性実験), 中川尚子(統計力学), 福井隆裕(物性理論), 横山淳(物性実験)
28	総合科学研究機構	中性子物性科学	佐藤正俊(強相関係, 超伝導), 鈴木淳市(中性子小角散乱), 舟越賢一(高圧中性子実験), 池内和彦(磁性・超伝導), 浦沢和也(磁性), 飯田一樹(磁性), 茂吉武人(磁性・構造解析), 松浦直人(磁性・構造), 石角元志(超伝導), 中尾朗子(結晶構造解析), 花島隆泰(結晶構造解析), 大石一城(中性子小角散乱), 坂口佳史(中性子・表面・界面), 町田真一(高圧中性子実験), 河村幸彦(結晶構造解析), 岩瀬裕希(コロイド等), 阿部淳(高圧中性子実験等), 富永大輝(中性子実験), 阿久津和宏(分析化学), 宗像孝司(高圧中性子実験), 吉良弘(偏極中性子), 水沢多鶴子(表面・界面), 宮田登(表面・界面), 山田武(ソフトマター), 藤井保彦(中性子科学), 張朔源(中性子イメージング)
29	KEK	ミュオン科学	三宅康博(ミュオン科学), 下村浩一郎(ミュオン科学), 西山樟生(ミュオン科学), 河村成肇(ミュオン科学), 中村惇平(ミュオン科学), 藪内敦(ミュオン科学, 陽電子科学)
30	高エネルギー加速器研究機構	中性子科学	瀬戸秀紀(ソフトマター物理), 神山崇(粉末中性子回折/電池材料), 大友季哉(中性子科学), 伊藤晋一(中性子科学), 横尾哲也(量子物性), 山田悟史(ソフトマター/表面構造解析), 山田和芳(物性物理学), 平賀晴弘(磁性/中性子非弾性散乱), 米村雅雄(中性子回折/固体化学), 遠藤仁(中性子科学/ソフトマター), 遠藤康夫(磁性/中性子非弾性散乱), 池田一貴(材料科学)
31	高エネルギー加速器研究機構	ミュオン物性	門野良典(ミュオン物性), 小嶋健児(ミュオン物性), 幸田章宏(ミュオン物性), 竹下聡史(物性実験), 岡部博孝(物性実験), 宮崎正範(ミュオン物性), 山内一宏(核磁気共鳴), 平石雅俊(ミュオン物性)
32	高エネルギー加速器研究機構	構造物性	村上洋一(構造物性), 中尾裕則(構造物性), 佐賀山基(構造物性), 岩野薫(物性理論), 間瀬一彦(表面物性), 組頭広志(電子物性), 堀場弘司(電子物性), 小林正起(電子物性), 蓑原誠人(電子物性), 河裾厚男(低速陽電子)
33	高エネルギー加速器研究機構	低速陽電子	兵頭俊夫(陽電子科学), 和田健(陽電子科学), 望月出海(陽電子科学), 一宮彪彦(表面科学)
34	日本原子力研究開発機構	MLF/JAEA	新井正敏(中性子科学), 川北至信(中性子物性科学), 中島健次(磁性・中性子科学), 酒井健二(中性子科学), 奥隆之(中性子散乱), 服部高典(高圧物性), 河村聖子(強相関係, μ SR), 梶本亮一(磁性・中性子散乱), 川崎卓郎(構造物性), 中谷健(中性子科学), 中村充孝(中性子科学), 鬼柳亮嗣(構造物性(X線・中性子回折)), 篠原武尚(中性子科学), 稲村泰弘(中性子科学)
35	日本原子力研究開発機構	中性子科学	社本真一(構造物性), 樹神克明(構造物性)
36	日本原子力研究開発機構	量子物性理論	前川禎通(物性理論), 森道康(物性理論), 大西弘明(物性理論), 久保勝規(物性理論), 安立裕人(物性理論), 家田淳一(物性理論), 松尾衛(物性理論), 顧波(物性理論), 徐卓(物性理論), 大沼悠一(物性理論)
37	日本原子力研究開発機構	ミュオン物性	髭本亘(固体物性), 伊藤孝(固体物性)
38	理化学研究所	物性理論	古崎昭(物性理論), 桃井勉(物性理論), 小野田繁樹(物性理論), 妹尾仁嗣(物性理論)
39	理化学研究所	量子凝縮相研究チーム	河野公俊(低温物理), 大野圭司(量子輸送), 池上弘樹(低温物理), 川村 稔(量子輸送), Petr Moroshkin(低温レーザー分光), 石黒亮輔(低温物理), Yu-Chen Sun(低温物理), Kostyantyn Nasyedkin(低温物理), 佐藤大輔(低温物理)
40	宇都宮大学	応用数学	矢嶋徹(非線形波動), 小池正史(理論物理), 齋藤雅子(理論物理)
41	埼玉大学	物性実験	片野 進(物性実験), 佐藤 一彦(物性実験), 小坂 昌史(物性実験), 谷口 弘三(物性実験), 道村 真司(物性実験)
42	埼玉大学	物性理論	佐宗哲郎(物性理論), 飛田和男(物性理論), 今井剛樹(物性理論)
43	埼玉大学	教育学部	近藤 一史(物性物理), 大向 隆三(光学物性), 荻窪 光慈(原子物理), 津田 俊信(磁性)

44	東京電機大学	物性物理	小田垣孝(物性理論, 統計力学), 隅山兼治(ナノ物性, 磁性体物理), 山室憲子(構造化学), 細田真妃子(メソスコピック系物理), 石井聡(ナノマテリアル)
45	放送大学	凝縮系理論	岸根順一郎(凝縮系理論)
46	東京大学	表面物性	小森文夫(表面物性), 吉信淳(表面物性), 長谷川幸雄(表面物性), 吉本真也(表面物性), 吉田靖雄(表面物性)
47	東京大学	超強磁場	嶽山正二郎(強磁場物性), 金道浩一(強磁場物性), 徳永将史(強磁場物性), 松田康弘(強磁場物性), 中村大輔(強磁場物性), 近藤晃弘(強磁場物性), 三宅厚志(強磁場物性), 池田暁彦(強磁場物性), 小濱芳允(強磁場物性), 松尾晶(強磁場物性)
48	東京大学	分子性物質	森 初果(分子性固体科学), 上田 颯(分子性固体科学)
49	東京大学	物性研 物性理論	常次宏一(物性理論), 押川正毅(物性理論), 上田和夫(物性理論), 甲元真人(物性理論), 高田康民(物性理論), 加藤岳生(物性理論), 服部一匡(物性理論), 多田靖啓(物性理論), 藤井達也(物性理論), 阪野壘(物性理論), James Quach(物性理論), Lajko Miklos(物性理論), 前橋英明(物性理論), 櫻井誠大(物性理論)
50	東京大学	計算物性物理	川島直輝(計算物性物理), 赤井久純(計算物性物理), 杉野修(計算物性物理), 野口博司(計算物性物理), 渡辺宙志(計算物性物理), 森田悟史(計算物性物理), 野口良史(計算物性物理), 笠松秀輔(計算物性物理), 芝隼人(計算物性物理), 正木晶子(計算物性物理), Hui-Hai Zhao(計算物性物理), 本山裕一(計算物性物理), 植村渉(計算物性物理), 瀧本佳成(計算物性物理), 土居抄太郎(計算物性物理)
51	東京大学	家研究室	家 泰弘(量子輸送), 遠藤 彰(半導体, 量子輸送)
52	東京大学	LASORグループ I	板谷治郎(高強度レーザー分光), 小林洋平(レーザー物理), 石井順久(超高速レーザー分光), 金井輝人(レーザー物理), 伊藤功(レーザー制御)
53	東京大学	LASORグループ II	辛埴(レーザー光電子分光), 高橋敏男(構造物性), 近藤猛(光電子分光), 石田行章(レーザー光電子分光), 白澤徹郎(構造物性), 橋本光博(構造物性)
54	東京大学	LASORグループ III	末元徹(光物性), 秋山英文(レーザー物性), 吉田正裕(半導体物性), 渡邊浩(光物性)
55	東京大学	LASOR軌道放射物性	松田巖, 原田慈久, 和達大樹, 山本達, 宮脇淳, 矢治光一郎, 原沢あゆみ, 藤澤正美(以上, 放射光)
56	東京大学	核磁気共鳴	瀧川仁(強相関電子物性)
57	東京大学	物性実験	高木 英典, 谷口 耕治, 高山 知弘, 谷 雲鷗, 河底 秀幸, 魯 楊帆
58	東京大学	物性理論	小形正男(物性理論), 松浦弘泰(物性理論)
59	東京大学	東大駒場物性実験	前田京剛(固体物理), 今井良宗(物質科学), 小野瀬佳文(凝縮系物性), 上野和紀(固体物理)
60	東京大学	物性理論	岡隆史(物性理論), 安崎遼路(物性理論)
61	東京大学	超伝導	為ヶ井強(渦糸物理), 卞舜生(材料開発)
62	東京工業大学	低温物理・大熊研究室	大熊 哲(低温物理), 金子真一(低温物理)
63	東京工業大学	斎藤研究室	斎藤晋(物性理論), 藤本義隆(物性理論), 青木祐太(物性理論), 陳智明(物性理論), 西川潤平(物性理論), 坂東優樹(物性理論), 平山敬一(物性理論)
64	東京工業大学	西森研究室	西森秀稔(統計力学), 高橋和孝(統計力学), 関優也(統計力学), 山中友貴(統計力学), 津田 淳一(統計力学)
65	東京工業大学	田中研究室	田中秀数(磁性), 栗田伸之(強相関電子系)
66	東京工業大学	物性理論安藤研究室	安藤恒也(物性理論)
67	東京工業大学	江間研究室	江間健司(ソフトマター)
68	東京工業大学	東工大応セラ研・元素センター	東 正樹(電子物性), 笹川崇男(電子物性), 伊藤 満(誘電体), 岡 研吾(電子物性), 神谷利夫(電子物性), 川路 均(熱物性), 北野政明(電子物性), 雲見日出也(電子物性), 佐々木 聡(構造物性), 多田朋史(物性理論), 谷山智康(磁性体), 平松秀典(電子物性), 北條 元(電子物性), 細野秀雄(電子物性), 松石 聡(電子物性)
69	東京医科大学	物性実験	大岩潔(物性実験), 増淵伸一(物性実験), 小林義彦(物性実験)

70	東京理科大学	陽電子	長嶋泰之(陽電子)
71	東京理科大学	物性理論	遠山貴巳(物性理論), 杉本貴則(物性理論)
72	東京理科大学	物性理論	山本貴博(物性理論)
73	東京理科大学	物性理論	渡辺一之(ナノ物質計算物理)
74	東京理科大学	物性理論	福山秀敏(物性理論)
75	早稲田大学	物性物理系	青木隆朗(量子光学) 朝日透(生物物性) 勝藤拓郎(酸化物) 栗原進(低温) 小山泰正(酸化物、合金) 宗田孝之(光物性) 武田京三郎(半導体) 竹延大志(有機半導体) 多辺由佳(ソフトマター) 新倉弘倫(原子物理) 原山卓久(非線形物理学) 松田梓(高温超伝導) 山崎義弘(非平衡系) 湯浅一哉(量子論基礎・量子情報)
76	お茶の水女子大学	数理物理・物性基礎論	出口哲生(数理物理・物性基礎論)
77	学習院大学	物性物理	高橋利宏(物性実験), 開康一(物性実験), 荒川一郎(表面物性), 山川紘一郎(表面物性), 渡邊匡人(結晶成長), 水野章敏(液体物性), 平野琢也(量子光学), 衛藤雄二郎(量子光学), 田崎晴明(統計物理学), 高麗徹(理論物理), 宮沢透(理論物理), 高橋雅裕(物性理論), 入澤寿美(結晶成長理論), 横山悦郎(結晶成長理論)
78	中央大学	物性グループ	香取眞理(統計力学), 石井靖(物性理論), 杉本秀彦(物性理論), 田口善弘(バイオインフォマティクス), 米満賢治(物性理論), 佐藤博彦(物質科学), 東條賢(量子光学), 若林淳一(半導体物理学実験), 脇田順一(パターン形成)
79	横浜国立大学	物理工学コース	大野かおる(物性理論), 武田 淳(レーザー分光、光物性), 田中正俊(表面), 君嶋義英(低温), 梅原 出(磁性), 小坂英男(量子情報), 島津佳弘(低温), 白崎良演(理論), 蔵本哲治(理論), 首藤健一(表面), 山本 勲(磁性), 関谷隆夫(光物性), 一柳優子(ナノサイエンス), 上原政智(磁性), 片山郁文(レーザー分光、光物性), 大野真也(表面), ハンネス・レビガー(理論)
80	明治大学	構造・電子物性	鹿児島誠一(分子性導体の構造・電子物性)
81	明治大学	材料科学	円谷和雄、圓谷真人、圓谷菜里
82	神奈川工科大学	神奈川工科大物性物理	高橋 正雄(物性理論) 万代 敏夫(物性実験) 山本 一雄(計算物理) 神谷克政(生物物理)
83	青山学院大学	青山学院大学物性グループ	松川宏(物性物理学、摩擦の物理), 古川信夫(強相関電子系の理論), 望月維人(強相関系・スピントロニクス理論), 三井敏之(表面物性), 北野晴久(物性実験, 超伝導)
84	東邦大学	物性	西尾豊(分子性導体), 田嶋尚也(分子性導体), 嶋田一雄(分子性導体), 小澤拓弥(分子性導体), 杉浦菜理(分子性導体), 牟田翔馬(分子性導体), 山田翔太(分子性導体), 實方博規(分子性導体), 曾根真智子(分子性導体), 河原林透(物性理論), 大江純一郎(物性理論), 嶋田裕樹(物性理論), 渡辺広紀(物性理論), 金衛国(量子エレクトロニクス), 箕輪達哉(量子エレクトロニクス), 赤羽直幸(量子エレクトロニクス), 伊藤大海(量子エレクトロニクス), 伊藤有矢(量子エレクトロニクス), 篠崎眞理(量子エレクトロニクス), 三上集(量子エレクトロニクス), 高木祥示(表面物理), 山田智之(表面物理), 平田健一郎(表面物理), 齊藤敏明(磁性物理), 赤星大介(強相関), 和田詠史(磁性物理), 蒔田佳耶(磁性物理), 手塚貴之(強相関), 堀川哲(磁性物理)
85	新潟大学	物性理論	大野義章(物性理論), 奥西巧一(物性理論), 柳瀬陽一(物性理論), 金鋼(物性理論), 山田武見(物性理論), 吉田智大(物性理論), 丸山大輔(物性理論), 高松周平(物性理論), 石塚淳(物性理論), 中村康晴(物性理論)
86	新潟大学	機能材料	原田修治(金属材料物性), 武田直也(低温物性), 坪井 望(光半導体), 椎名亮輔(物性理論), 佐々木進(核スピン物性), 中野智仁(材料物性), 村上貴洋(金属材料物性), 加瀬直樹(低温物性), 石川亮佑(光半導体), 風間寿弥(物性実験), 泉 貴文(物性理論), 北尾啓祐(物性実験), 古谷靖明(物性実験), 大屋七海(物性実験), 安達季並(物性実験)
87	新潟大学	物性実験	摂待力生(物性実験), 後藤輝孝(物性実験), 根本祐一(物性実験), 赤津光洋(物性実験), 廣瀬雄介(物性実験), 三本啓輔(物性理論), 立川喜章(物性実験), 栗原綾佑(物性実験), 早坂千明(物性実験)
88	北陸先端科学技術大学院大学	物性一般	岩崎秀夫(低温固体物性), 水田博(ナノエレクトロニクス), 富取正彦(表面物性), 大島義文(表面物性), 水谷五郎(表面物性), Khuat Thi Thu Hien(表面物性), 小矢野幹夫(磁性・半導体), 村田英幸(有機電子デバイス), 鈴木寿一(化合物半導体デバイス), 山田省二(半導体物性)

89	富山大学	低温磁性物理	桑井智彦(低温磁性)石川義和(磁性),水島俊雄(磁性),田山孝(低温磁性)
90	富山県立大学	固体物性	福原忠(磁性),室裕司(磁性)
91	信州大学	物性実験	天児寧(磁性実験),中島美帆(磁性実験),宮丸文章(光物性),武田三男(光物性)
92	山梨大学	電子物性	鳥養映子(ミュオン科学),和田智志(材料工学),白木一郎(表面物性、プローブ顕微鏡),内山和治(電子物性、近接場)
93	静岡大学	物性物理学	溜淵継博(物性理論),海老原孝雄(固体電子物性),阪東一毅(半導体光物性),松本正茂(物性理論),嶋田大介(酸化物物性),鈴木淳史(物性基礎論)
94	名古屋大学	磁性物理学	佐藤憲昭(磁性物理),出口和彦(低温物理),井村敬一郎(強相関電子物性)
95	名古屋大学	超低温	和田信雄(低温物理),松下琢(低温物理),檜枝光憲(低温物理)
96	名古屋大学	固体磁気共鳴	伊藤正行(強相関電子系),小林義明(超伝導),清水康弘(核磁気共鳴)
97	名古屋大学	物性理論	上羽 牧夫(物性理論),河野 浩(物性理論),紺谷 浩(物性理論),小林晃人(物性理論),土射津 昌久(物性理論),山川 洋一(物性理論),山下耕平(物性理論),齋藤 哲郎(物性理論),藤本 純治(物性理論),大野祐輔(物性理論),佐脇 里奈(物性理論),仲澤 一輝(物性理論),松野元樹(物性理論),中岡 宏徳(物性理論),法月 直人(物性理論),松岡勝嗣(物性理論),山口 皓史(物性理論)
98	名古屋大学	物性理論	田仲由喜夫(物性理論),佐藤昌利(物性理論),大成誠一郎(物性理論),矢田啓司(物性理論),山影相(物性理論),小林伸吾(物性理論),田口勝久(物性理論),Bo Lu(物性理論),橋本樹(物性理論),Cassio Sozinho Amorim(物性理論),小沢英之(物性理論),鷹見翔太(物性理論),山内徹也(物性理論)
99	分子科学研究所	電子物性	中村敏和(磁気共鳴実験)
100	豊田理化学研究所	低温物理	西田信彦(低温物理実験)
101	豊田理化学研究所	光物性	中村新男(光物性)
102	核融合科学研究所	プラズマ固体相互作用シミュレーション	中村浩章(物性理論),高山有道(プラズマ固体相互作用),伊藤篤史(物性シミュレーション),小田泰丈(物性理論)
103	三重大学	物性物理	佐野和博(物性理論),中村浩次(物性理論),内海裕洋(物性理論),鳥飼正志(物性理論)
104	京都大学	低温物理学研究室	佐々木豊(低温物理),松原明(低温物理),Stephane Faure(物性物理),金本真知(低温物理),笠井純(低温物理),木崎泰英(低温物理),本田弦(低温物理),岡本耀平(低温物理),宮岡慧(低温物理)
105	京都大学	京大工磁性物理	中村裕之(磁性物理・磁性材料),田畑吉計(磁性物理・中性子散乱),和氣剛(磁性物理・固体化学)
106	京都大学	固体量子物性(前野G)	前野悦輝(低温物理学),米澤進吾(低温物理学),Shahbaz Anwar(低温物理学),江口学(低温物理学),谷口晴香(低温物理学),梶川知宏(低温物理学),中村有志(低温物理学),西村佳悟(低温物理学)
107	京都大学	非線形動力学	佐々真一(非平衡物理学),篠本滋(統計物理学),小林未知数(非平衡物理学)
108	京都大学	物性理論	川上則雄(物性理論),池田隆介(物性理論),手塚真樹(物性理論),青山和司(物性理論),下出敦夫(物性理論),畠山雄気(物性理論),細谷健市(物性理論),尾崎順一(物性理論),塩崎謙(物性理論),竹中裕斗(物性理論),上田克(物性理論),阪井田賢(物性理論),小形悠(物性理論)
109	京都大学	金相	吉村一良(磁性・超伝導・NMR),植田浩明(無機固体化学・物性実験・構造解析),道岡千城(超伝導・磁性・NMR)
110	京都大学	固体物性理論	戸塚圭介(物性理論),段下一平(物性理論),田中宗(物性理論),杉本高大(物性理論),新城一矢(物性理論),谷本和彦(物性理論),太田卓見(物性理論),原亮介(物性理論),今村征央(物性理論),長尾一馬(物性理論)
111	京都大学	非平衡物理学	武末真二(統計力学),紙谷典和(非平衡物理学),金泰燁(非平衡物理学),深津卓弥(非平衡物理学),増本雄亮(非平衡物理学)
112	京都大学	統計動力学	早川尚男(非平衡統計力学),渡辺優(量子力学基礎論),藪中俊介(ソフトマター物理),佐野友彦(非平衡熱力学),高田智史(粉体物理)

113	京都大学	相転移ダイナミクス	荒木武昭(統計物理学)、北村光(統計物理学)、内田隆之(統計物理学)、植松祐輝(統計物理学)、神戸之法(統計物理学)、深井新太郎(統計物理学)、中辻誠也(統計物理学)、名倉淳平(統計物理学)
114	京都大学	集積機能工学講座	掛谷一弘(電子物性実験)、辻本学(超伝導実験)、神原仁志(超伝導実験)、小森祥央(機能性薄膜実験)、野村義樹(超伝導エレクトロニクス)
115	京都大学	固体構造物性	島川 祐一(構造物性)、齊藤 高志(構造物性)
116	同志社大学	生命物理科学	吉川研一(非線形非平衡物理)、剣持貴弘(計算物理)、松浦弘智(ソフトマター物理)
117	奈良県立医科大学	物性理論	平井國友(物性理論)、藤本雅文(統計物理)、高木拓明(生物物理)
118	和歌山大学	物性物理	篠塚雄三(物性理論)、伊東千尋(物性実験)、木曾田賢治(物性実験)、秋元郁子(物性実験)、顧萍(物性実験)、尾崎信彦(物性実験)、小田将人(物性理論)、村上俊也(物性実験)
119	大阪市立大学	超低温物理学	石川修六(超低温物理)、矢野英雄(超低温物理)、畑徹(超低温物理)、小原顕(超低温物理)、加藤千秋(超低温物理)、木村豊(超低温物理)、大村祐輝(超低温物理)、森岡悠(超低温物理)、若狭洋平(超低温物理)、相原安裕(超低温物理)、千葉祐也(超低温物理)、..
120	大阪市立大学	電子相関物理	小栗章(物性理論)、西川裕規(物性理論)、寺谷義道(物性理論)、小池章高(物性理論)、中田幸宏(物性理論)
121	大阪市立大学	電子物性	吉野治一(物性実験)、岩崎義己(物性実験)、黒田菜月(物性実験)、野浪大輝(物性実験)
122	大阪市立大学	光物性工学	中山正昭(光物性)、金大貴(光物性)、竹内日出雄(光物性)
123	大阪市立大学	超伝導物理	村田恵三、横川敬一(物性実験、有機導体)、多田諒大(物性実験、有機導体)、平山光(物性実験、有機導体)、井上寛治(物性実験、有機導体)、大田 寛也(物性実験、有機導体)
124	大阪市立大学	数理工学	寺井章(物性理論)、杉田歩(物性理論)
125	大阪市立大学	素励起物理学	坪田誠(物性理論)、竹内宏光(物性理論)
126	大阪大学	田島	田島節子(物性実験)、宮坂茂樹(物性実験)
127	大阪大学	極限物性	萩原政幸(強磁場物性)、清水克哉(高圧物性)、加賀山朋子(高圧物性)、木田孝則(強磁場物性)、中本有紀(高圧物性)
128	大阪大学	理論物質学	川村光(物性理論)、湯川諭(物性理論)、下川統久朗(物性理論)
129	大阪大学	花咲研	花咲徳亮(輸送現象)
130	大阪大学	ナノ構造物性	野末泰夫(物性実験)、中野岳仁(物性実験)、鷹岡貞夫(物性実験)
131	大阪大学	量子物性	小林研介
132	大阪大学	ナノ物性理論領域	笠井秀明(ナノ物性理論領域)、中西寛(ナノ物性理論領域)、Dino Wilson Agerico Tan(ナノ物性理論領域)
133	大阪大学	光物性理論	安食博志(光物性理論)
134	大阪大学	光物性	木村真一(光物性)、大坪嘉之(表面物性)
135	大阪府立大学	物性理論	加藤勝(物性理論)
136	大阪府立大学	数理物理講座	魚住孝幸(物性理論)、野場賢一(物性理論)、岩住俊明(X線分光)、三村功次郎(固体分光)、安齋太陽(固体分光)、田口幸広(固体分光)
137	大阪府立大学	材料構造物性	森茂生(材料物理)、石井悠衣(固体化学)
138	大阪府立大学	量子物性	石田武和(超伝導・磁性)、野口悟(磁性・超伝導)、宍戸寛明(磁性・超伝導)、宮嶋茂之(超伝導デバイス)
139	大阪府立大学	ナノ光物性	石原一(光物性)、沈用球(光物性)、余越伸彦(光物性)
140	大阪府立大学	有機半導体工学	内藤裕義(有機エレクトロニクス)、小林隆史(光物性)、永瀬隆(半導体物性・分子エレクトロニクス)
141	大阪府立大学	ナノデバイス研究グループ	秋田成司(ナノカーボン)、有江隆之(ナノカーボン)、竹井邦晴(フレキシブルデバイス)
142	大阪府立大学	プロセス物理	平井義彦(微細加工・ナノインプリント)、川田博昭(微細加工・プロセスプラズマ)、安田雅昭(微細加工・電子ビーム応用)
143	大阪府立大学	量子・光デバイス	堀中博道(光計測)、和田健司(レーザー応用・光計測)、松山哲也(光計測)

144	大阪府立大学	機能デバイス物性	藤村紀文(酸化エレクトロニクス)、芦田淳(半導体材料)、吉村武(誘電体物理)
145	大阪府立大学	スピントロニクス	戸川欣彦(磁性・電子線物理)
146	大阪府立大学	物性理論	田中智(物性理論)
147	大阪府立大学	光物性	溝口幸司(光物性)、河相武利(光物性)、大畠悟郎(光物性)
148	大阪府立大学	分子磁性	細越裕子(分子磁性)、小野俊雄(磁性物理)
149	大阪府立大学	構造物性	久保田佳基(構造物性)、石橋広記(構造物性)
150	大阪府立大学	物性理論	神吉一樹(物性理論)
151	大阪府立大学	未来材料	河村 裕一(化合物半導体)、川又 修一(電気伝導・磁性)
152	大阪電気通信大学	シミュレーション物理	阿久津典子(表面・界面の統計力学、結晶成長理論)
153	神戸大学	極限物性	太田仁(強磁場物性、ESR)、大道英二(強磁場物性)、大久保晋(強磁場物性、ESR)、櫻井敬博(強磁場物性、ESR)、原茂生(極限物性)
154	神戸大学	低温・電子物性	藤 秀樹(低温物性、NMR)、小手川恒(低温物性、NMR)、菅原仁(低温物性、dHvA)、松岡英一(低温物性、磁性)
155	神戸大学	理論物性系	播磨尚朝(量子物性論)、久保木一浩(物性理論)、蛭名邦禎(物性理論:人間発達環境学研究科)、利根川孝(物性理論:名誉教授)、鎬木誠(物性理論:名誉教授)
156	関西学院大学	物性理論	吉野太郎(物性理論、統計物理学)
157	兵庫県立大学	物性理論	菅誠一郎(物性理論)、鈴木隆史(物性理論)
158	兵庫県立大学	理学部グループ	高橋慶紀(物性理論・磁性理論)、長谷川泰正(物性理論)、中野博生(物性理論)、島信幸(固体物理)、兼安洋乃(物性理論)、赤浜裕一(高圧物性・材料科学)、福井宏之(高圧物性)、小林寿夫(高圧物性・磁性)、小泉昭久(磁性)、池田修悟(高圧物性・磁性)、水戸毅(低温物性・磁気共鳴)、上田光一(低温物性・磁気共鳴)、小山岳秀(低温物性・磁気共鳴)、住山昭彦(低温物性)、山口明(低温物性)、満身稔(磁性)、田島裕之(有機電子物性)、田中義人(光物性・放射光科学)
159	兵庫県立大学	ナノマイクロシステム	山口明啓(磁気物理、スピントロニクス、物性実験、ナノマイクロシステム、放射光科学、分子化学)
160	原子力機構	放射光物質科学	池田隆司(物性理論)、石井賢司(X線散乱)、稲見俊哉(構造物性)、岡根哲夫(軟X線分光)、大和田謙二(構造物性)、片山芳則(高圧物性)、斎藤祐児(電子物性)、坂井徹(物性理論)、高橋正光(表面物性)、筒井健二(物性理論)、野村拓司(物性理論)、福田竜生(構造物性)、藤森伸一(光電子分光)、町田晃彦(高圧構造物性)、三井隆也(磁気物性)
161	(公財)高輝度光科学研究センター	分光物性	宇留賀朋哉(XAFS)、河村直己(磁気分光)、新田清文(XAFS)、鈴木基寛(磁気分光)、小嗣真人(ナノ磁性)、大河内拓雄(ナノ磁性)、池永英司(光物性)、室隆桂之(光物性)、池本夕佳(赤外分光)、木下豊彦(放射光分光物性)
162	高輝度光科学研究センター	非弾性X線	櫻井吉晴(電子物性)、伊藤真義(電子物性)、依田芳卓(フォノン物性)、筒井智嗣(電子・フォノン物性)、石川大介(液体金属)、内山裕士(電子・フォノン物性)、岡田京子(フォノン物性)
163	島根大学	誘電体物性	秋重幸邦(誘電体物性)、塚田真也(誘電体物性)
164	島根大学	物質科学科物理分野	田中宏志(物性理論)、藤原賢二(磁気共鳴)、伊藤正樹(物性理論)、大庭卓也(回折結晶学・金属物性)、水野薫(格子欠陥)、広光一郎(分子性固体・有機半導体)、山田容士(超伝導・結晶成長)、西郡至誠(磁性)、三好清貴(磁性・低温)、武藤哲也(物性理論)、本山岳(磁性・低温)、水野斎(有機光機能材料)
165	岡山大学	岡山大NMR	鄭国慶(低温物性)、川崎慎司(低温物性)、俣野和明(低温物性)
166	岡山大学	量子多体物理学	市岡優典(物性理論)、水島健(物性理論)、町田一成(物性理論)、中井宣之(物性理論)
167	岡山大学	物性基礎物理学	岡田耕三(物性理論)、西山由弘(統計物理学)
168	岡山大学	量子物性	野原実(固体物性)、工藤一貴(固体物性)
169	広島大学	不規則系の物理	乾雅祝(物性実験)、星野公三(物性理論)、宗尻修治(物性理論)、梶原行夫(物性実験)
170	広島大学	ソフトマター	戸田昭彦(ソフトマター)、田中晋平(ソフトマター)、田口健(ソフトマター)

171	広島大学	電子物性	浴野稔一(電子物性実験)、杉本暁(電子物性実験)、坂井優太(電子物性実験)、長坂康平(電子物性実験)
172	広島大学	固体物性	蔦岡孝則(磁性体物理)
173	広島大学	磁性物理学	高島敏郎(磁性・熱電物性)、鬼丸孝博(f電子系磁性)、梅尾和則(高圧物性)、末國晃一郎(熱電物性)
174	広島大学	低温物理学	鈴木孝至(低温物理)、石井 勲(低温物理)、藤田貴弘(低温物理)、酒見龍裕(低温物理)、上川修平(低温物理)
175	広島大学	先端研物性理論	嶋原浩(物性理論)、樋口克彦(物性理論)、田中新(物性理論)、獅子堂達也(物性理論)
176	広島大学	先端研電子相関	松村武(磁性)、世良正文(磁性)、谷田博司(磁性)
177	広島大学	光物性低温	宇田川眞行(光物性・低温物理学) 荻田典男(光物性・低温物理学)、長谷川巧(光物性)
178	山口大学	山口大学理学部物理	野崎浩二(高分子物理)、山本 隆(高分子物理)、増山博行(誘電体)、朝日孝尚(誘電体)、笠野裕修(誘電体)、繁岡 透(磁性)、藤原哲也(磁性)、芦田正巳(低温物理)、浦上直人(ソフトマター)
179	山口大学	山口大学工学部	嶋村修二(物性理論)、荻原千聡(半導体物性)、赤井光治(物性理論)、仙田康浩(物性理論)
180	香川大学	物性理論	磯田誠(物性理論)、青木高明(非線形)
181	徳島大学	物性物理研究室	小山 晋之(固体物性)、齊藤 隆仁(物性物理学)、真岸 孝一(固体物理学)、久田 旭彦(固体物性)
182	鳴門教育大学	自然系	本田亮(磁気共鳴)、武田清(分子性液体)、粟田高明(放射線物性)、寺島幸生(分子性液体)
183	高知大学	物性グループ	西岡孝(物性実験)、加藤治一(物性実験)、北川健太郎(物性実験)、國府俊一郎(物性理論)、北川晃(量子光学理論)
184	愛媛大学	愛媛大学工学部物性グループ	平岡耕一(固体物性学)、田中寿郎(磁性)、山室佐益(ナノ粒子、磁性)、下村哲(半導体物性)、莊濤(固体物性学)、藤岡昌治(固体物性学)、星出啓貴(固体物性学)、松下騎士(固体物性学)、仲岡優也(ナノ粒子、磁性)、作岡弘規(ナノ粒子・磁性)、野村貴俊(励起子の光物性)、真鍋直樹(正弦組成型反射器の伝導特性)、森貞俊(量子細線の光学的特性)、吉田剛(量子細線の光学的特性)、赤松良彦(GaAsBi量子細線の成長)
185	愛媛大学	物性理論	飯塚剛(数理物理)、楠瀬博明(物性理論)、瀧崎員弘(物性理論)、松岡千博(数理物理)、宮田竜彦(物性理論)
186	愛媛大学	物性実験	前原常弘(プラズマ物理)、栗栖牧生(個体物理)、小西健介(磁性)、神森達雄(磁性)、近藤久雄(光物性)
187	福岡教育大学	福教大物性グループ	秋永正広(物性実験、低温物理)、大後忠志(物性実験、プラズマ分光)、宇藤茂憲(物性実験、ソフトマター)、三谷尚(物性理論、表面物理)
188	九州大学	統計物理学	中西秀(統計物理学)、野村清英(統計物理学)、坂上貴洋(ソフトマター物理学)
189	九州大学	磁性物理学	和田裕文(磁性物理学)、光田暁弘(磁性物理学)
190	九州産業大学	超伝導	西崙照和(低温物性実験)
191	長崎大学	長崎大教育・物性	福山 隆雄(プラズマ物理学)
192	熊本大学	熊大・物性	赤井一郎(光物性物理学)、安仁屋勝(固体イオニクス、アモルファス物質)、市川聡夫(超伝導物性)、川合伸明(衝撃物性)、岸木敬太(物性理論)、下條冬樹(物性理論)、原正大(メソスコピック物理)、藤井宗明(低温物理)、細川伸也(放射光構造物性)、真下茂(極限物性)、松田真生(分子集合体物性)、光永正治(非線形レーザー分光)、横井裕之(極限物性)、吉朝朗(高圧物性・結晶学)
193	鹿児島大学	物性物理	藤井伸平(物性理論)、野澤和生(物性理論)、秦浩起(複雑系科学)、末谷大道(非線形科学)、廣井政彦(低温物理学)、重田出(低温物性物理学)、伊藤昌和(低温物理学)、小山佳一(磁気物性)、三井好古(強磁場科学)
194	琉球大学	琉球大学物性グループ	二木 治雄(物性実験)、梯 祥郎(物性理論)、稲岡 毅(物性理論)、仲間 隆男(物性実験)、深水 孝則(物性実験)、堺 英二郎(物性理論)、眞榮平 孝裕(物性理論)、阿曾 尚文(物性実験)、安田 千寿(物性理論)、辺土 正人(物性実験)、與儀 護(物性実験)、柳澤 将(物性理論)、田原 周太(物性実験)、堀内敬三(物理化学)

物性委員名簿(2015年3月現在)

No.	機関名	グループ名	物性委員1	物性委員2	物性委員3
1	北海道大学	低次元電子物性	野村一成		
2	北海道大学	低温物理学研究室	河本 充司		
3	北海道大学	物性理論I	奥田浩司		
4	北海道大学	物性理論II	北 孝文		
5	北海道大学	強相関	網塚浩		
6	北海道大学	高压物理学研究室	小田 研		
7	室蘭工業大学	室蘭物理	村山茂幸		
8	青森公立大学	物性グループ	佐藤 和弘		
9	弘前大学	固体物理	渡辺孝夫		
10	秋田工業高等専門学校	物理	金田保則		
11	東北大学	金研低温物理	佐々木孝彦		
12	東北大学	量子ビーム金属物理	藤田全基		
13	東北大学	強磁場物性野尻浩之	野尻浩之		
14	東北大学	分光物理	佐藤卓		
15	東北大学	ナノ固体物理	谷垣勝己		
16	東北大学	物性理論	石原純夫	柴田尚和	
17	東北大学	光電子固体物性	高橋 隆		
18	東北大学	極低温科学	落合 明		
19	東北大学	低温・超伝導物理学	小池洋二		
20	東北大学	陽電子科学	永井 康介		
21	筑波大学	低温物理	大塚洋一		
22	筑波大学	強相関物性	守友 浩		
23	筑波大学	物質工学実験	小島誠治		
24	筑波大学	物質工学理論	日野健一		
25	筑波大学	超伝導・物性	門脇和男		
26	産業技術総合研究所	産業技術総合研究所物性物理	柏谷聡	柳澤孝	
27	茨城大学	物性物理	伊賀文俊		
28	総合科学研究機構	中性子物性科学	佐藤 正俊	鈴木 淳市	舟越 賢一
29	KEK	ミュオン科学	三宅康博		
30	高エネルギー加速器研究機構	中性子科学	瀬戸秀紀	伊藤晋一	
31	高エネルギー加速器研究機構	ミュオン物性	門野良典		
32	高エネルギー加速器研究機構	構造物性	村上洋一	組頭広志	
33	高エネルギー加速器研究機構	低速陽電子	兵頭俊夫		
34	日本原子力研究開発機構	中性子科学	新井正敏	川北至信	
35	日本原子力研究開発機構	MLF/JAEA	社本真一		
36	日本原子力研究開発機構	量子物性理論	前川禎通		
37	日本原子力研究開発機構	ミュオン物性	髭本亘		
38	理化学研究所	物性理論	古崎昭		
39	理化学研究所	量子凝縮相研究チーム	河野公俊		

40	宇都宮大学	応用数学	矢嶋徹		
41	埼玉大学	物性実験	片野進		
42	埼玉大学	物性理論	佐宗哲郎		
43	埼玉大学	教育学部	近藤一史		
44	東京電機大学	物性物理	小田垣孝		
45	放送大学	凝縮系理論	岸根順一郎		
46	東京大学	表面物性	小森文夫		
47	東京大学	超強磁場	嶽山正二郎		
48	東京大学	分子性物質	森初果		
49	東京大学	物性研 物性理論	常次宏一	押川正毅	
50	東京大学	計算物性物理	川島直輝	赤井久純	
51	東京大学	家研究室	家泰弘		
52	東京大学	LASORグループ I	板谷治郎		
53	東京大学	LASORグループ II	辛埴		
54	東京大学	LASORグループ III	末元徹		
55	東京大学	LASOR軌道放射物性	松田巖		
56	東京大学	核磁気共鳴	瀧川仁		
57	東京大学	物性実験	高木英典		
58	東京大学	物性理論	小形正男		
59	東京大学	東大駒場物性実験	前田京剛		
60	東京大学	物性理論	岡隆史		
61	東京大学	超伝導	為ヶ井強		
62	東京工業大学	低温物理・大熊研究室	大熊哲		
63	東京工業大学	斎藤研究室	斎藤晋		
64	東京工業大学	西森研究室	西森秀稔		
65	東京工業大学	田中研究室	田中秀数		
66	東京工業大学	物性理論安藤研究室	安藤恒也		
67	東京工業大学	江間研究室	江間健司		
68	東京工業大学	東工大応セラ研・元素センター	東正樹	笹川崇男	
69	東京医科大学	物性実験	増淵伸一		
70	東京理科大学	陽電子	長嶋泰之		
71	東京理科大学	物性理論	遠山貴巳		
72	東京理科大学	物性理論	山本貴博		
73	東京理科大学	物性理論	渡辺一之		
74	東京理科大学	物性理論	福山秀敏		
75	早稲田大学	物性物理系	栗原進	勝藤拓郎	
76	お茶の水女子大学	数理物理・物性基礎論	出口哲生		
77	学習院大学	物性物理	田崎晴明	渡邊匡人	
78	中央大学	物性グループ	香取眞理		
79	横浜国立大学	物理工学コース	大野かおる	武田淳	
80	明治大学	構造・電子物性	鹿児島誠一		
81	明治大学	材料科学	円谷和雄		
82	神奈川工科大学	神奈川工科大物性物理	高橋正雄		
83	青山学院大学	青山学院大学物性グループ	松川宏		
84	東邦大学	物性	齊藤敏明	河原林透	高木祥示

85	新潟大学	物性理論	大野義章		
86	新潟大学	機能材料	武田直也	椎名亮輔	
87	新潟大学	物性実験	摂待力生		
88	北陸先端科学技術大学院大学	物性一般	水谷五郎		
89	富山大学	低温磁性物理	桑井 智彦		
90	富山県立大学	固体物性	福原 忠		
91	信州大学	物性実験	天児 寧		
92	山梨大学	電子物性	鳥養映子		
93	静岡大学	物性物理学	海老原孝雄		
94	名古屋大学	磁性物理学	佐藤憲昭		
95	名古屋大学	超低温	和田信雄		
96	名古屋大学	固体磁気共鳴	伊藤正行		
97	名古屋大学	物性理論	河野 浩	紺谷 浩	
98	名古屋大学	物性理論	田仲由喜夫	佐藤昌利	
99	分子科学研究所	電子物性	中村敏和		
100	豊田理化学研究所	低温物理	西田信彦		
101	豊田理化学研究所	光物性	中村新男		
102	核融合科学研究所	プラズマ固体相互作用シミュレーション	中村浩章		
103	三重大学	物性物理	佐野和博		
104	京都大学	低温物理学研究室	佐々木豊		
105	京都大学	京大工磁性物理	中村裕之		
106	京都大学	固体量子物性(前野G)	前野悦輝		
107	京都大学	非線形動力学	佐々真一		
108	京都大学	物性理論	川上則雄	池田隆介	
109	京都大学	金相	吉村一良		
110	京都大学	固体物性理論	段下一平		
111	京都大学	非平衡物理学	武末真二		
112	京都大学	統計動力学	早川尚男		
113	京都大学	相転移ダイナミクス	荒木武昭		
114	京都大学	集積機能工学講座	掛谷一弘		
115	京都大学	固体構造物性	島川 祐一		
116	同志社大学	生命物理科学	剣持貴弘		
117	奈良県立医科大学	物性理論	平井國友		
118	和歌山大学	物性物理	篠塚 雄三		
119	大阪市立大学	超低温物理学	石川修六	矢野英雄	
120	大阪市立大学	電子相関物理	小栗章		
121	大阪市立大学	電子物性	吉野治一		
122	大阪市立大学	光物性工学	中山正昭		
123	大阪市立大学	超伝導物理	村田惠三		
124	大阪市立大学	数理工学	寺井 章		
125	大阪市立大学	素励起物理学	坪田誠		
126	大阪大学	田島	田島節子		
127	大阪大学	極限物性	萩原政幸		
128	大阪大学	理論物質学	川村光		

129	大阪大学	花咲研	花咲 徳亮		
130	大阪大学	ナノ構造物性	野末泰夫		
131	大阪大学	量子物性	小林研介		
132	大阪大学	ナノ物性理論領域	笠井 秀明		
133	大阪大学	光物性理論	安食博志		
134	大阪大学	光物性	木村真一		
135	大阪府立大学	物性理論	加藤勝		
136	大阪府立大学	数理物理講座	田口幸広		
137	大阪府立大学	材料構造物性	森 茂生		
138	大阪府立大学	量子物性	石田武和		
139	大阪府立大学	ナノ光物性	石原 一		
140	大阪府立大学	有機半導体工学	内藤裕義		
141	大阪府立大学	ナノデバイス研究グループ	秋田成司		
142	大阪府立大学	プロセス物理	平井義彦		
143	大阪府立大学	量子・光デバイス	堀中博道		
144	大阪府立大学	機能デバイス物性	藤村紀文		
145	大阪府立大学	スピントロニクス	戸川欣彦		
146	大阪府立大学	物性理論	田中智		
147	大阪府立大学	光物性	溝口幸司		
148	大阪府立大学	分子磁性	細越裕子		
149	大阪府立大学	構造物性	久保田佳基		
150	大阪府立大学	物性理論	神吉一樹		
151	大阪府立大学	未来材料	河村裕一		
152	大阪電気通信大学	シミュレーション物理	阿久津典子		
153	神戸大学	極限物性	太田仁		
154	神戸大学	低温・電子物性	藤 秀樹		
155	神戸大学	理論物性系	播磨尚朝		
156	関西学院大学	物性理論	吉野太郎		
157	兵庫県立大学	物性理論	菅誠一郎		
158	兵庫県立大学	理学部グループ	住山昭彦	小林寿夫	
159	兵庫県立大学	ナノマイクロシステム	山口明啓		
160	原子力機構	放射光物質科学	坂井徹	稲見俊哉	
161	(公財)高輝度光科学研究センター	分光物性	河村直己		
162	高輝度光科学研究センター	非弾性X線	櫻井吉晴		
163	島根大学	誘電体物性	秋重幸邦		
164	島根大学	物質科学科物理分野	田中宏志	藤原賢二	
165	岡山大学	岡山大NMR	鄭国慶		
166	岡山大学	量子多体物理学	市岡 優典		
167	岡山大学	物性基礎物理学	岡田耕三		
168	岡山大学	量子物性	野原実		
169	広島大学	不規則系の物理	乾 雅祝		
170	広島大学	ソフトマター	戸田昭彦		
171	広島大学	電子物性	浴野稔一		
172	広島大学	固体物性	蔦岡孝則		

173	広島大学	磁性物理学	高畠敏郎		
174	広島大学	低温物理学	鈴木孝至		
175	広島大学	先端研物性理論	嶋原 浩		
176	広島大学	先端研電子相関	松村武		
177	広島大学	光物性低温	荻田典男		
178	山口大学	山口大学理学部物理	野崎浩二		
179	山口大学	山口大学工学部	仙田康浩		
180	香川大学	物性理論	青木高明		
181	徳島大学	物性物理研究室	小山 晋之		
182	鳴門教育大学	自然系	本田亮		
183	高知大学	物性グループ	西岡孝		
184	愛媛大学	愛媛大学工学部物性グループ	平岡耕一	下村哲	
185	愛媛大学	物性理論	楠瀬博明		
186	愛媛大学	物性実験	前原常弘		
187	福岡教育大学	福教大物性グループ	秋永正広		
188	九州大学	統計物理学	中西秀		
189	九州大学	磁性物理学	和田裕文		
190	九州産業大学	超伝導	西寄照和		
191	長崎大学	長崎大教育・物性	福山 隆雄		
192	熊本大学	熊大・物性	真下茂	赤井一郎	
193	鹿児島大学	物性物理	小山佳一		
194	琉球大学	琉球大学物性グループ	二木 治雄	稲岡 毅	

グループへの新規加入について

登録するグループには、それぞれのグループに属する会員を登録してください。会費は、登録会員数5名まで、年間500円、5名を超えるごとに500円ずつ加算されます。また、物性グループで行う選挙に投票権を持つ物性委員会の委員も下記のように登録会員数10人(端数は切り上げ)につき1人の割合で出させていただきます。

グループの更新は3年に一度行われます。現在は2014年4月から2017年3月までの期間の1年目に当たっています。入会は随時受付できますが、入会時期により会費が異なります。

2015年4月から2016年3月までに入会のグループは2年間の会費を納入してください。なお、2012年9月の拡大物性委員会の決定に基づき、今回は本来の額の半額になっています。

会員数	1年間の会費	2年間の会費	3年間の会費	委員数
1～5人	500円	1,000円	1,500円	1名
6～10人	1,000円	2,000円	3,000円	1名
11～15人	1,500円	3,000円	4,500円	2名
16～20人	2,000円	4,000円	6,000円	2名
21～25人	2,500円	5,000円	7,500円	3名

各グループは、登録委員の中から1人の世話人を決めてください。世話人は以下の方法で登録してください。

名簿情報新規登録・更新方法

- 2014年4月から新規登録となり、2014年度からの3年度分の会費をいただいております。2015年4月以降に登録・更新の場合は2年度分の会費をいただいております。振込手数料を差し引いた金額を下記の口座へ納入してください。

銀行:紀陽銀行 支店:中もず支店(店番857)

種類:普通預金

口座名:物性委員会事務局

口座番号:492237

- 新規登録・更新、共に<http://www.pe.osakafu-u.ac.jp/busseiG/nyukai.html>の「登録フォーム」から名簿情報を登録してください。

不明な点は下記の連絡先にお問い合わせいたします。

連絡先:〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 工学研究科 電子・数物系専攻 電子物理工学分野 量子物性研究室

email: Bussei_Gr_Office@pe.osakafu-u.ac.jp

手続きは、名簿の登録と会費の納入が事務局で受理されて完了します。納入の確認が取れ次第、事務局から確認のメールを差し上げます。

物性グループ事務局

委員長 石田武和（大阪府大工）

事務局長 田中智（大阪府大理）

事務局員 加藤勝（大阪府大工）

戸川欣彦（大阪府大工）

連絡先

〒599-8531 大阪府 堺市 中区 学園町 1-1

大阪府立大学大学院 工学研究科

電子・数物系専攻 電子物理工学分野 量子物性研究室

email: Bussei_Gr_Office@pe.osakafu-u.ac.jp